



土木学会創立50周年 記念事業報告

■ 記念式典 ■ 東京文化会館

昭 39.11. 6 (金) 13.30~15.30

東京上野公園の一角に近代的な偉容を誇る東京文化会館小ホールにおいて約 300 名の会員参集のもとに創立 50 周年記念式典が厳かに行なわれた。プログラムはつぎのとおりである。

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 開会の辞 | 5. 感謝状贈呈および表彰式 |
| 2. 式 辞 | 6. 閉会の辞 |
| 3. 記念事業経過報告 | 7. 宮中雅楽 |
| 4. 来賓祝詞 | |

定刻 13 時 30 分、羽田専務理事開会を宣し、福田会長が登壇、つぎのごとき式辞を述べた。

式 辞

社団法人土木学会会長 福田 武雄

本日土木学会の創立 50 周年記念式を挙げるに当りまして関係各省大臣をはじめ多数来賓各位の御臨席を仰ぎ、また多数の会員各位の遠近各地から御来会のもとにこの意義ある式典を盛大に挙行することができましたことは私の光栄とするところであり感謝にたえません。

本学会はわが国土木工学ならびに土木技術の分野における唯一の総合的学術団体として大正 3 年 11 月創立以来ここに 50 周年を迎えたのでありますが、年とともに発展し今日では会員数約 20 000 名に達し全国各地の学校、研究機関、官公庁、民間企業体等、土木関係のあらゆる分野におよび支部は 7 箇所に設置され、それぞれ地域的な独自の活動を行なっているであります。かくのごとく本会が今日の隆昌をみるに至りましたことは歴代会長をはじめ役員および会員各位の不断の御努力御支援によることはもちろんであります、他面、学会関係各位の絶大なる御援助の賜でありまして、この機会に本会を

代表して深く感謝の意を表する次第であります。土木工学は御承知のように人類の福利増進に寄与すべき工学の一大分野でありまして、その範囲もきわめて広く、治水、砂防、発電、上下水道、道路、橋梁、鉄道、港湾、都市計画、国土保全等、国民の福利厚生、産業開発の根幹をなす重要なものであります。土木学会はその定款に示すとおり創立以来「土木工学の進歩と土木事業の発達を図りもって学術文化の進展に寄与することをその目的」として時代の進運にともない、いよいよその活動分野を拡充して参ったのであります。最近技術革新の波は土木技術の分野においても例外ではなく近年土木技術は長足の進歩をみるに至ったのでありますが、このときに当ってわが土木学会の果たした役割もまた大なるものがあつたと申されましよう。すなわち学会誌、論文集を毎月発行するほかに各種の調査研究のため委員会が活発に活動し各部門の新知識が動員されその成果ががつぎつぎと結実され総合されてゆくことは学会本来の使命ともいへば委員会の数は 40 を算し委員の延人員は 1 500 名に達するのはまことに偉観ともいへべきであります。

また毎年講習会、講演会、年次学術講演会等が開催され全国各専門分野の研究成果が発表されるほか国際的にも学術技術の交流が行なわれ国際会議に協力する等、学会活動分野は年々拡充されつつあるのであります。当学会は本年 50 周年を迎えるにあたりまして土木図書館の建設を始め種々の記念出版物を刊行し、また講演会、映画、見学会等の記念事業を計画実施しましたが、これらの事業に要する資金についても会員各位をはじめ関係各位の絶大なる御協賛を仰ぎ、ほぼその目的を達することができましたことは各位の御理解と御信頼の賜と深く感謝の意を表するとともに、今後当学会の使命の重大なるを痛感するものであります。終りに御来臨の来賓各位の御援助御鞭撻をお願いするとともに全国 20 000 の会員各位の御協力によって、わが土木学会がいよいよ発展し土木工学の進歩と土木事業の進展に貢献することを祈念して私の式辞といたします。

× × ×

引続き記念事業の経過に関し各委員長から報告をうけた。その内容はつぎのとおりである。

図書館建設委員会の経過報告

図書館建設委員会委員長 金子源一郎

学会がだんだん発展して会館が手狭になり、増築する必要からこれを 50 周年記念事業として取り上げることになり、第 1 回の委員会を 37 年 9 月開催したのでありますが、席上第一にとりあげられたのが敷地の問題であ

ります。

学会 40 周年のとき将来の拡張を予想してやや広めに 700 坪の敷地を借りたのでありますが、現在使っている所を除いても敷地は十分、交通も便利であるので、敷地はこの庭に決めたのであります。

だんだん計画を進めていくとこの地が公園緑地に指定され事務所等の建築は許されないが、図書館なら許されるということがわかったのであります。

そこで 38 年 9 月委員会で会館増築を改めて、図書館建設の事業に変更したのであります。

かような経過で計画を進めて、都市計画の許可も得、建築の確認も得、また史蹟『江戸城外堀跡』の現状変更の許可も得、また大蔵省の指定寄附の許可も得、資金の見とおしも確立したところで、本年 6 月着工、10 月末竣工したのであります。

構造は軽量鉄骨のコンクリートブロック造で、規模は 2 階建、延面積約 200 坪、書庫、閲覧室兼会議室 3 つ、大きい方は 50 人、小さい方は 20 人程度のもの 2 つ、さらに 200 人を収容する講堂があります。冷暖房の設備があり、窓は防音のため二重ガラスとなっています。

ほかに旧会館の模様替えを要しますがこの費用をあわせて、工費約 3400 万円、このほか什器備品の購入、図書購入費があるのであります。

従来学会の運営の状態を見ると大変数多くの委員会があり、1 年を通じて 1 日平均 2 以上の会合が催され、多いときは 4～5 の会合が開かれるので、やむなく学会外に室を求むる現状であり、また在来の図書室は手狭で閲覧室もないのでありますが、今度の新図書館の建設によってこのような問題は一抛に解決することになり、今後の学会運営に面目を一新することになると存じます。

以上で私の報告を終わりますが、この機会に地主の国鉄御当局、建物の認可等を所管する東京都首都整備局、文部省文化財保護委員会御当局等の御理解ある御取扱いに対し、また設計監督を担当してくれました建設省関東地方建設局第 2 営繕工事事務所の方々の行届いた御尽力に対しまして、また工事を請負った鉄建建設 KK の誠意ある御施工ぶりに対しありがたく感謝の意を表するものであります。

行事委員会の経過報告

行事委員会委員長 田中 茂美

私どもの相当いたしました行事委員会の報告をいたします。この委員会の任務は、記念式典、祝賀会、記念講演会、PR 活動および見学となっています。

昭和 37 年 7 月以来数回にわたって、委員会、小委員

会を開催いたしました結論としてつぎのような方針を立てて活動して参ったのであります。第一に記念式典、これは 11 月 6 日この会場で、また祝賀会は上野の精養軒で本日 4 時から開催することとし、つぎに記念講演会は明 7 日この会場で開催することにいたしました。

見学会については第 1 班は 11 月 8 日東京付近の道路、オリンピック施設、羽田空港、モノレール等を見学いたします。第 2 班は 11 月 9～10 の両日バスで東海道沿線の工事を視察しながら東京から大阪まで見学旅行をすることになっています。

つぎに PR 活動につきましては、種々検討しましたが結論として映画による土木技術の啓蒙宣伝、特に若い世代の人達に対し土木技術、土木事業に関心を深めさせるよう巡回映画会を催すこととしたのであります。そのために映画コンクールを催して、32 編の応募を得たのでありますが、そのうちから入選 6 編、佳作 2 編を選び、この映画をもって、全国各地で支部の協力を得て、公開映画会を 11 月 10 日から 12 月初めにかけて巡回映画会として 34 回開催することにいたしました。

なお NHK に申し込んで土木に関する放送をお願いした結果 11 月 4 日第 3 チャンネルから教養特集として、『都市計画』の番組で放送されたのであります。

以上かんたんでありますが私の報告を終わります。

記念出版委員会の経過報告

記念出版委員会委員長 佐藤 寛政

本日の 50 周年記念式を迎えるにあたり、いろいろの記念事業の一つとして出版物を刊行する計画が進められ、私ども委員を委嘱されたのであります。

その出版物の大部分についてはすでに御覧になれるようになっていてフロントに見本を出しているの御覧下さい。残りについては残念ながら今日間に合いませんでした。

つぎに簡単に全般の御報告を申し上げます。今回の記念出版物として計画されたものは 8 種であります。すなわち

大正以降日本土木史

最近 10 年間の工事写真集

50 年間の学会誌・論文集総索引

土木学会 50 年略史

記念論文集

学会誌記念特集号

それからかねてから計画されていた土木工学ハンドブック、土木用語辞典であります。

以下その内容について簡単に御説明申し上げますと、

大正以降日本土木史は前に 40 周年記念事業としてスタートしたものでありますが、途中で中断され今日に至ったものであります。今回 50 周年を機に取りまとめることにしたのであります。

記念論文集は日本の土木技術発展のあゆみを骨子として編集するようにしたのであります。

工事写真集はどういう形で出すかいろいろ論議されたのでありますが、『建設／創造／技術』という名前をつけて最近の工事写真約 1000 葉を収録するとともに、日本における建設、創造、技術について若干の解説を加えることにいたしました。

土木用語辞典につきましては、かねてから要望されていましたが、二つの出版社において別々に計画されていたのを今回を機に土木学会監修ということにして二つのものを統一して出版することにいたしました。

大正以降日本土木史についてはさきほど申し上げましたが、単に『日本土木史』という名前にして、大正より昭和 15 年までと副題をつけることにしたのであります。このことは将来も土木史が継続して編集されることを予想してのことです。

これらの出版物の委員長には日本土木史は青木楠男さんに、土木工学ハンドブックは福田武雄さんに、土木用語辞典は本間 仁さん、日本の土木技術は沼田政矩さん、学会誌論文集総索引は千秋信一さん、写真集は片山祐一さん、学会誌特集号は八十島義之助さん、土木学会 50 年略史は事務局というような方々にお願いし、大変なお骨折をお願いしているのであります。

現在すでに出版しているものは「土木工学ハンドブック」と「学会誌・論文集総索引」であります。つい最近出版されたものは「日本の土木技術」と「土木学会 50 年略史」および「写真集」であります。

「日本土木史」は若干おくれる見込みであり「土木用語辞典」は慎重を期するため、その出版は来年度になる見込みであります。いずれにいたしましても 50 周年記念事業として間もなくまとまるはずであります。

以上の出版物の刊行につきましては、各委員長始め大変多数の委員諸兄ならびに執筆者の熱心なる御努力の結晶でありまして、この機会に深甚の敬意を表しまして私の報告といたします。

総務委員会の経過報告

総務委員会委員長 永田 年

総務委員会の経過を簡単に報告いたします。

総務委員会は参与 4 名、委員 31 名で構成され、その任務は、予算の編成、決算事務、資金募集、表彰関係事

務、記念品そのほか他の委員会に属せざる事項であります。

昭和 38 年 3 月第 1 回委員会を開催して以来委員会、小委員会を重ねること 7 回、この間参与、委員は資金募集に没頭したのであります。

つぎに本委員会任務の内容について申し上げます。

(1) 予算の編成、図書館建設委員会、行事委員会、記念出版委員会の予算提出を待って、本委員会に計り、つぎのように予算を決定いたしました。

土木図書館関係 5 000 万円

先ほど金子図書館建設委員長から報告されました建設費のほかには什器および土木図書館としての図書整備費を加えて 5 000 万円といたしました。

行事関係 480 万円

記念出版関係 1 250 万円

総務委員会関係 270 万円

合計 7 000 万円

この予算のうち土木図書館関係の 5 000 万円は法人の寄附金に対する免税措置の対象となりますので、本年 2 月大蔵省へ指定寄付金の指定の申請をいたし、昭和 40 年 7 月 31 日までに期限として、大蔵省告示第 368 号をもって許可と相成ったのであります。

(2) 募金計画と現在の募金状況

募金の目標を

建設業、コンサルタント、土木材料、機械関係会社等 5 000 万円

発注者（会社、都道府県市、公共企業体等）

1 100 万円

会員（個人会員、特別会員） 900 万円

合計 7 000 万円

に置き、小委員会にて割当を定め募金に着手いたしました。10 月末日現在の申込額は 5 700 万円ですが、手続中のもの、口頭で確約を得たものなど約 1 000 万円程度ありますのでほぼ目標に近づいてはおりますが、金は入手してみないことにはあてになりませんので、今後さらに目標達成に努力する所存であります。

なお個人会員 4 000 人から寄付をいただきその額は 600 余万円に達し、ほぼ目標額に達しました。

以上述べましたように、募金額がその目標の一手手前に達しましたことは会員各位をはじめ、土木関係各方面の方々の絶大なる御協賛の賜でありまして、ここに深甚の謝意を表する次第であります。また今後目標額達成に私ども努力いたしますので、格別の御支援を御願いたします。

(3) 表彰および感謝状

表彰および感謝状は土木学会の事業に対する功労者に授与するものであります。

このうち表彰状は学会事務職員中 20 年以上の勤続者 3 名に授与することになりました。

感謝状は会員の中で特に土木学会の事業に尽力された方々に贈呈することになりました。

40 周年記念事業の前例に慣い、その後の会長、専務理事に贈呈いたしますほかに、本学会には 47 の委員会および小委員会があり、その成果はすなわち学会事業の成果であるとともにわが国の土木事業に大なる貢献をなしているものであります。これら委員会の委員長を多年または多数勤められた方々の業績に対し、また学会の建物関係に特殊の業績を残された方に、感謝状を贈呈することに相成りました。この結果感謝状を贈呈する方は 16 名と相成りました。

以上のほか、記念品その他につきましては、特に御報告するほどのこともありませんので省略させていただきます。

最後に本委員会の任務達成に側面から御援助と御協力下さった会長、理事各位、および会員各位に厚く御礼申し上げます。

× × ×

本日の盛典を祝し内閣総理大臣を始め、文部、建設、運輸の各大臣、日本学術会議会長、日本工学会会長、土木工業協会会長よりそれぞれ来賓祝詞をいただいた。

祝 辞

内閣総理大臣 池田 勇人

土木学会創立 50 周年の記念式典が開催されるにあたり一言祝辞を申しあげます。近年におけるわが国産業経済の成長発展は目ざましいものがありますが、その大きな要因は国土の開発と保全により各種産業の基盤が拡充強化されたことにあると考えます。国土の開発と保全を推進するためには科学技術なかんづく土木技術の進歩が大きな支柱となっており、本学会がわが国土木技術の向上のために果たされた役割もまたきわめて重大であったと申すべきであります。わが国の土木技術は世界の最高水準を行くものと聞きおよんでおります。そして本学会の活動範囲もひとりわが国土にとどまらず広く海外諸国にその技術を紹介するとともに相互に相協力して世界産業文化の向上に寄与されているところであります。この時にあたり本学会が創立 50 周年を迎えられましたことは誠に意義深いものがあると存じます。あらゆる科学技術の分野において過去にその例を見ない革新の時代が訪れております。そして土木技術の分野はまさにその重要な一翼を担うものであります。本学会の使命はいよいよその重きを加え世人の期待するところますます大なるも

のがあろうかと考えます。会員各位におかれては、何とぞ一層の御研さんと御努力により新しい繁栄の時代をもたらす輝かしい使命を達成されんことを念願してやまない次第であります。終りに本学会の一段の御発展と、会員各位の御自愛をお祈りして祝辞といたします。

祝 詞

文部大臣 愛知 揆一

本日ここに社団法人土木学会の創立 50 周年記念式典が行なわれるにあたりひとことお祝の言葉を申し述べます。社団法人土木学会は土木工学の進歩および土木事業の発達をはかる目的をもって過去半世紀にわたり土木界唯一の総合学会としてわが国におけるこの分野の科学および技術の進展に多大の寄与をしてられました。創立以来時代の要請にこたえ当学会は着実に発展し今や全国各地各種の職域にわたる約 20 000 人の会員を擁しその調査研究は水理、耐震、橋梁、海岸、岩盤、衛生等、土木工学の広範にわたる専門分野におよび当学会の活発な活動はかつ目に値するものがあります。本日この式典の行なわれますにあたり歴代の会長はじめ関係各位の多年にわたる御努力にあらためて深く敬意を表します。国家の発展をつちかう学術の振興と国土の開発保全に関する土木工学と土木技術の進歩発展に対する各方面からの要望期待のいよいよ急なるとき当学会がこの記念すべき式典をあげ創立 50 周年の輝かしい歴史のうえにさらに今後の発展を期されることはまことに力強い限りであります。わたくしは本日の式典を心からお祝いいたしますとともに当学会が今後とも適正な運営のもとにいつその発展をとげられるよう切に希望して祝辞といたします。

祝 辞

建設大臣 小山 長規

本日、社団法人土木学会創立 50 周年記念式典が挙行されるにあたり祝辞を申し述べる機会を得ましたことは私の最も欣快とするところであります。申すまでもなく貴学会は土木工学の進歩と土木事業の発達をを図ることを目的として大正 3 年に設立されたのでありますが当時 400 名にすぎなかった会員も 50 年を経た今日においてはその数 19 000 余名を数える隆盛をみることとなり土木工学において最高の権威ある団体として斯界の進歩発展に大きく寄与されつつあることは誠に御同慶にたえない次第であります。そもそも土木工学は文明の発達とともに発展してきたものであり土木技術は文化の基盤を造

成し社会福祉の向上に不可欠のものであることは世界の歴史の示すところであります。わが国においても古来数々の独創的な土木技術を生みその遺跡を今日各所にみることができるとはありますが、明治以後欧米技術の接触により急速にその進歩発達が進み今やわが国独自の輝かしい業績を世界に誇っているのです。この間にあって貴学会は時勢の進運に常に意を用いられ時宜に適した調査活動をつづけられ学問の発達と事業の推進に努められたのであります。すなわち、創立後日なお浅い大正6年学会内に東京市内交通調査委員会を設けて東京市内の交通対策を検討され大正12年には震災後の帝都復興調査委員会を設け復興の具体策を当局に建議されたのであります。また昭和3年にはコンクリート調査会を設けてコンクリート標準示方書を制定しコンクリート施工技術の基礎を確立されるなど数々の業績を上げ今日においては50になんなんとする各種の委員会を設けて土木工学の発達にたゆまざる努力を傾注されているのであります。御承知のとおりわが国経済の伸長はまことに目ざましいものがありますが、さらにこの発展を持続され国民生活の向上を期するためにはその基盤となる道路、河川等の社会資本の拡充強化を図らなければなりません。これを推進する基礎は土木工学の進歩と向上にあるわけでありまして貴学会の御活躍にまつところきわめて大きなものがあります。本日50周年の記念式典にあたりその半世紀にわたる貴学会の業績に対し深く敬意を表するとともに今後さらに研鑽を積まれ土木工学界に課せられた重責を十分果されるよう切望してやまないものであります。一言述べて祝辞といたします。

祝 詞

運輸大臣 松浦周太郎

本日、ここに土木学会創立50周年を迎えて記念式典を挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し述べます。御承知のとおり、土木学会は大正3年11月に設立以来、土木工学の進歩および土木事業の発展を目的として斯界の最高権威を集められ、わが国土木界発展のために重要な役割を果たしてこられました。その業績は、学術的にはもちろん、産業、経済界の飛躍的発展の基盤として高く評価されているものであります。特に公共事業の遂行に必要な不可欠な土木工学の重要性を考えますとき、今日の公共事業の進展は、土木学会の多年にわたる継続的かつ意欲的な努力の賜物であると信ずるものであります。近年におけるわが国経済のめざましい発展は、生産と流通を拡大させ、その結果、輸送の重要性はますます増大しております。鉄道、港湾、あるいは空港といった

輸送網における施設の整備は、今後の国民経済の維持と拡大のためには決してゆるがせにはできない要点でございます。わが国は、欧米の先進国にくらべ、輸送に関する公共投資の面において、いちじるしい立ち遅れがあるといわれます。最近ようやく、この現状が一般に認識されるようになり、東海道新幹線をはじめとして輸送網整備のための諸施策が着々と実現しております。運輸省におきましては、国民経済の動きと成長への強い要請を輸送面により効果的に実現するために、長期的見通しのもとに、積極的な事業の推進に努力してまいり所存であります。このときに当たり、土木学会が創立50周年の記念式典を盛大に挙行されることはまことに意義深いものと信じます。土木工学は国づくりに寄与する基本的な技術であります。今後さらに関係各位におかれましては、土木学会発展のためにいっそうの努力を重ねられるとともに、土木技術の高揚と普及のために意欲的な活動を展開されて、わが国繁栄の基礎を固められますようお願いいたします。私の祝辞といたします。

祝 詞

日本学術会議会長 朝永振一郎

本日、社団法人土木学会創立50周年記念式典が挙行されるに当たり祝辞を述べる機会を得ましたことは私の最も光榮とするところであります。社団法人土木学会は、わが国土木部門における最も権威ある唯一の総合学術団体として大正3年11月に創立されて以来土木工学の理論と応用に関する各般にわたり研鑽を重ねわが国学術文化の進歩発展ならびに外国の学協会との交流にも大きな貢献をされてまいりました。その功績は誠に大きなものがあり関係者各位に深く敬意を表する次第であります。近年わが国の経済文化は飛躍的な発展をとげ、その基盤をなす土木工学も大きな進歩をいたしました。これには土木学会の果たした役割もまた大きなものがあり今後ますます隆盛に向わんとする日本産業界の土木学会に期待するところ誠に切なるものがあると思えます。本日の輝かしい記念式典にあたり関係者各位のいっそうの御尽力と今後の学会の発展をお祈りいたしまして私の祝辞といたします。

祝 辞

社団法人日本工学会会長 丹羽保次郎

社団法人土木学会は大正3年11月創立され日本工学会の古い有力なメンバーであります。今日ここに50周

年を迎え盛大な記念式典をあげられるに当りまして私はたまたま日本工学会会長の任にありますため、工学関係の総合団体を代表してお祝の言葉を述べますことを最も光栄に存じます。明治 12 年工学会が設立され、当時工学会は工学に関するすべての学科を包含していましたが、各学科が進歩発達して、専門的に分化するにしたがって、日本鉱業会、日本建築学会などがつぎつぎに独立しましたが、土木工学科は工学会の主流であったために分離独立が遅れ、明治 31 年に同系統の鉄道協会が設立され、ついで大正 3 年になって土木学会が設立されたと聞いております。また土木界の長老古市公威男爵は長年工学会会長を兼ねられるなど、土木学会と工学とは誠に因縁浅からぬものがあります。土木学会は創立当初会員数 400 余名であったものが今日では 20 000 名に近く、工学関係の有数の大学に発展しましたが、土木事業もこれに歩調を合せて、佐久間ダム、黒四ダムの建設、新幹線工事などに着々と成功しました。土木学会はこれら事業の基礎となる学術技術の進歩に大きく貢献され、今日の「土木日本」の名声は遠く海外にもおよぶに至ったものと存じわが国文化向上のために喜びにたえません。このような輝かしい土木工学の進歩、土木業界の発展は決して一朝にして成されたものでなく、永年にわたる幾多先人の血のにじむような努力と卓抜した睿智との凝って一丸となったものの所産であるといわなければなりません。ここにこの 50 年という時間の意義があるものと存じます。何卒今日の 50 周年記念式典を契機としてこの隆昌を永く持続されることはもちろん宇宙時代に入るといわれる今後に対しいっそう研鑽努力され土木工学の発展を計り引いては世界人類の福祉増進に寄与されますよう切望して祝辞といたします。

祝 辞

社団法人土木工業協会会長 熊谷太郎

本日ここに社団法人土木学会の創立 50 周年の記念式典を行なわれるに当りまして、一言お祝辞を申し述べる機会を得ましたことは私の深く喜びとするところであります。今日貴学会には、各大学、官公庁、研究機関、民間企業体等あらゆる分野にわたり 20 000 人に近い、多数の会員を持たれ、土木工学に関する中核的推進母体として、その調査研究活動はもとより、その他広範な活動をつづけておられますことは、誠に御同慶に堪えないところであります。顧みますれば、貴学会は、その前身ともいべき工学会のあとを引継ぎ大正 3 年 11 月創立されたのでありますが、爾来常に土木工学の進歩向上を旨として技術面の開発向上について、不断の努力をつづけ

られ、その研究成果は、今日までのわが国の道路、港湾、鉄道、河川、水力発電等の各般の土木事業の発展に多大の貢献を致されました。特に終戦以降のわが国土の復興開発の大事業に際して、その技術面の革新的な進歩に寄与された貴学会の役割はきわめて大きく、われわれの深く感謝致しているところであります。今後わが国経済は引続きその高度成長が予想され、したがってその基盤をなす各般の土木事業もいよいよ大規模に推進せられることと存じますが、これに関連して、貴学会の活動に対する期待もまた頗る大きいものがあります。ここに創立 50 周年を迎えられるに当り、貴学会におかれても、従来の業績に満足せられることなく、その本来の使命の達成に向って、さらに一段とその体制を整備せられていっその努力を致されるよう希求してやまないものであります。一言述べて祝辞と致します。

× × ×

■ 感 謝 状

元 会 長 青木 楠男 菊池 明 故平山復二郎
42~51 代 内海 清温 米田 正文 田中 茂美
10 名 沼田 政矩 永田 年 藤井松太郎
山本 三郎

貴殿が本学会会長として学会発展のため貢献された御功績は洵に感謝に堪えません。ここに創立 50 周年記念式典を挙行するにあたり謹んで感謝の意を表します。

なお、故平山会長の場合は英子夫人に対し贈られた。

委 員 長 沼田 政矩 本間 仁 国分 正胤
3 名

貴殿が永年に亘り数々の本学会調査研究委員会委員長として学術技術発展のため貢献された御功績は洵に感謝に堪えません。ここに創立 50 周年記念式典を挙行するにあたり謹んで謝意を表します。

土木図書館建設委員 金子源一郎

1 名 貴殿はさきに土木学会会館建設委員長として困難な事業を遂行せられ更にまた 50 周年記念土木図書館建設委員長として前回にもまさる幾多困難な問題を解決されここに図書館落成に至ったことは洵に感謝に堪えません。ここに創立 50 周年記念式典を挙行するにあたりその御功績に対し深甚の謝意を表します。

前専務理事・書記長 末森 猛雄 故中川 一美

2 名 貴殿が本学会専務理事（書記長）として永年に亘り学会発展のため貢献された御功績は洵に感謝に堪えません。ここに創立 50 周年記念式典を挙行するにあたり謹んで感謝の意を表します。

故中川書記長の場合は屋寿子夫人に対し贈られた。

■ 表 彰 状

勤続 20 年以上 平田 千種 安野 米吉 松林志満子

3 名 貴殿は永年本学会に勤続し業務に精励成績優秀で他の模範とするに足るものであり創立 50 周年記念式典を挙行するにあたり記念品を贈り表彰します。

平田会員課長は表彰式の翌 7 日、肝硬変で急逝されたので御

知らせする。なお勤続10年以上の職員4名も、今回は特に表彰された。

勤続10年以上 岡本 義喬 鈴木 嵩 捧箸 伴六

4名 堀内 清次

* 捧箸, 堀内は定年退職者

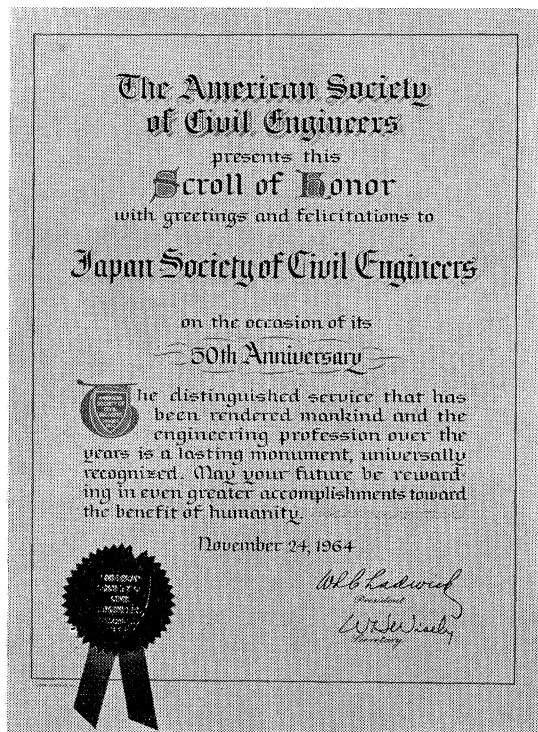
× × ×

ここで羽田専務理事より外国から寄せられたメッセージ、祝電、国内から寄せられた祝電が披露された。

American Society of Civil Engineers (ASCE)

会長の Waldo G. Bowman 氏, 事務局長の William H. Wisely 氏より丁寧な挨拶状を頂くとともに、掲載のごとき立派な Scroll を贈呈された (ASCE は 1852 年創立)。

ASCE から届いたリーフレット



【要約】 アメリカ土木学会は、日本の土木学会の50周年記念祭に際して祝賀の御挨拶にかえて名誉ある Scroll (飾り書き目録) をお贈り致します。過去にわたって人類に報いられた著名な奏仕と工学者達は永久の記念碑であり、広くその努力は一般に認められております。

貴会の前途が人類の利益に対してより大きな業績として報いられんことを願うものであります。 1964.11.24

The Institution of Engineers (India)

I thank you for your letter of 5th October and appreciate greatly your invitation to me to attend the Golden Jubilee of the Japan Society of Civil Engineers.

Much as I would have liked to be with you on this occasion, travel difficulties and my own preoccupations prevent me from being able to do so. I would, therefore, like to send my congratulations to your Society on the completion of 50 years of great service to civil engineering in Japan and abroad, and my very sincere greetings for its continued prosperity in the years to come.

With my personal regards,

President, Dr. T. Sen

Institution of Civil Engineers (London) 電報

On behalf of the Institution of Civil Engineers, we the president and council offer warmest congratulations on the occasion of the fiftieth Anniversary of the foundation of your Society and our sincere wish for your continued prosperity and good work in the interests of our common profession.

It is a matter of great regret that circumstances render it impracticable to send a personal representative to the celebrations. Harding president, McDonald secretary INSTITUTION LONDON.

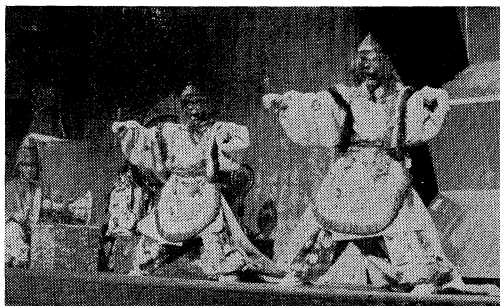
創立50周年記念式典に寄せられた祝電

全国各地より18通の祝電が会場に寄せられたが、紙面の関係で御芳名のみ記し感謝の意を表する(順不同・敬称略)。

参議院議員	天 堃 良 吉	大 阪 市 長	中 馬 馨
北海道知事	町 村 金 五	豊 中 市 長	藤 戸 翼
東京都知事	東 竜 太 郎	福 岡 市 長	阿 部 源 藏
鳥取県知事	石 破 二 朗	宮 崎 市 長	有 馬 美 利
徳島県知事	原 菊 太 郎	北 海 道 土 木 部 長	高 瀬 正
香川県知事	金 子 正 則	名 誉 会 員	齊 藤 静 脩
福岡県知事	鶴 崎 多 一	鹿 島 建 設	鹿 島 守 之 助
熊本県知事	寺 本 広 作	山 口 大 学	加 賀 美 一 二 三
佐賀県知事	池 田 直 元	職 員	堀 内 清 次

以上で記念式典を終り、宮内庁楽部による雅楽が演ぜられた。特設の舞台にくりひろげられた、萬歳楽(まんざいらく)、納曽利(なそり)の演技は、学会将来の発展を念ずる参加者に深い感銘を与え素晴らしいエピソードとなったことを喜びたい(雅楽の解説は49巻9号、記念行事のお知らせ参照)。

雅楽を舞う宮内庁楽部

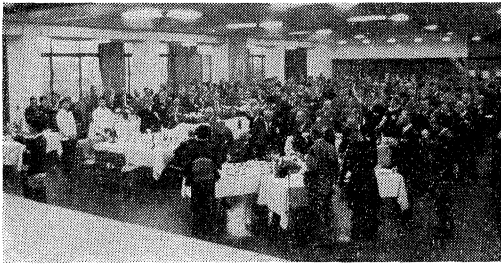


■ 記念祝賀会 ■ 上野精養軒

昭 39.11. 6 (金) 16.00~17.30

記念式典終了後、会場を上野公園内の精養軒大ホールに移し、350名の参加者のもとに盛大なパーティーが開かれた。田中記念行事委員会委員長の司会で始まり、まず生野団六名誉会員(86才)が立ち、大正3年本会創立当時から現在に至る思い出話があり、つづいて原口神戸市長、米田参議院議員、平井喜久松名誉会員等のあいさつがあった。余興として西崎舞踊団の日光和楽、深川カッポレなどの民謡があり、和気あいのうちに17時30分盛大な宴を閉じた。

祝賀会会場風景



■ 記念講演会 ■ 東京文化会館

昭 39.11. 7 (土) 9.30~16.30

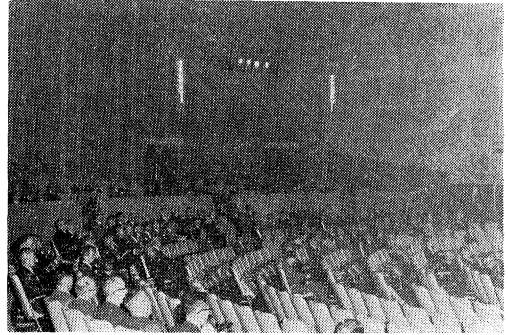
前日に引続き第2日目は記念講演会である。式典と同じ文化会館小ホールは、必ずしも記講演会むきとはいえず掛図、黒板の利用などに不便な点が多かった。聴講者も100名ならずで50周年記念にふさわしい盛上りに欠けたことは残念である。会長講演、特別講演2編のほか、今回は各支部より部門講演の題目と講師の推せんを受けたのが特長といえる。プログラムはつぎのとおりで各講演内容は本号に収録したので参照されたい。

会長講演	9.35~10.20	構造工学進展のあゆみ 会長 福田 武雄
特別講演	10.20~11.10	わが国の高速道路について 建・道路局長 尾之内由紀夫
同	11.10~12.00	東海道新幹線について 国鉄技師長 藤井 松太郎
部門講演	12.40~13.05	輸送調整に関する課題 京大助教授 天野 光三
同	13.05~13.30	現位置試験方法の進歩 基礎地盤コンサルタント 森 博
同	13.30~13.55	不連続粒度の骨材を用いたコンクリートについて 九大助教授 徳光 善治
同	13.55~14.20	岩見沢跨線橋について(泥炭地帯

における基礎工法)

同	14.20~14.45	北海道開発局 佐藤 幸雄 大阪市の都市計画におけるOR 大阪市総合計画局 寺田 久弥
同	14.50~15.15	エネルギーと原子力 日本原子力研究所 長山 泰介
同	15.15~15.40	大都市圏計画の諸問題について 名古屋市計画局 谷 重幸
同	15.40~16.05	わが国水理学の現況 中央大学教授 林 泰造
同	16.05~16.30	最近の鋼材と継手 東大教授 奥村 敏恵 国鉄技師 田島 二郎*

記念講演会会場風景



■ 見学会 ■

◀都内見学会▶ 昭 39.11. 8 (日)

抜けるような秋空のもとに婦人をまじえた200余名の参加者はバス4台に分乗、数々の話題を呼んだ東京オリンピック関連諸施設を詳細に見学した。

9時、体操競技の行なわれた千駄ヶ谷駅前の東京体育館前に集まり、首都高速道路公団職員の方々より高速道路を中心とした工事全般の説明をうけ、某社の運動会にごった返す場内を一巡、国立競技場を車窓より眺めつつひとまわりする。創価学会の大運動会とやらで競技場内部を見せて貰えなかったのは残念……同じ学会なのにとこの声に一同爆笑する。続いてパラリンピック開会式に湧き返る代々木選手村を横手にみて国立屋内総合競技場へ。代々木の丘にそびえる一群の施設は、IOCより芸術とスポーツの融合に成功し……と絶讃をあげたにふさわしく、見事な調和美を形成している。

水泳場に使われた本館内部は明るい大理石仕上げで、2本のメインケーブルに支えられた空間の動線処理が素晴らしい。ここはアイススケート場に目下改装中であり、今後の維持の困難さを思わせる。バスケットボールが行なわれた別館は本館と対照的に内部は木材を主体

としたセピア系のしゅい建物である。係の方の説明に活発な質議を展開しながら11時、高速道路4号線ぞいに甲州街道を進み、大原交差点を左折し環状7号線へ入る。東京都が220億の巨費を投じて大田区南千束から板橋区本町に至る15kmの都道で、幅員25~33m、19カ所の立体交差をもつ動脈で、行詰った東京の交通難打破に大きな力を発揮しつつある。もぐる、上るのくり返しは首都高速道路にみられない特色でジェットコースター道路と異名をとっているだけに担当者の苦心も大変だったと思う。上馬立体交差点から放射4号線へ出て駒沢運動公園へ到着。駒沢陸上競技場、第一~第三ホッケー場、体育館、バレーコートなど、41万m²の公園にちらばる施設は見学者で一杯である。緑の芝生で昼食をとり、レスリングが行なわれた体育館内部を見る。他の施設はいろいろな関係でまだ公開されていない。この公園まことに立派なオリンピックの遺産であるが便所が少ないと参加者から不満の声が出る。公園である以上、各施設の内部にのみ重点をおかず公共性をもっと考えるべきだろう。十分に秋の日ざしをあびて13時ころ放射4号線を通して渋谷へ出る。千代田区永田町から世田谷新町へ至る放4の8200mは、都心の繁華街を貫く30~40mの道路のために、環7とほぼ同じく215億の予算が投入された幹線である。限られた日限と強力な反対運動にさぞかし関係者も頭を痛めたことだろう。渋谷駅前では国鉄山手線と東横線の上を走るデビダーク橋の横を走り工事中の3号線沿いに国会議事堂付近から高速道路へ入る。三宅坂インターチェンジを抜け江戸橋で下り兜町駐車場へ……日曜日のせいか閑散たる証券街の一角に983台という都内最大の収容面積を誇るこの駐車場は、

代々木体育館を見学する一行



高速道路1号線の下に地上2階、地下2階で延べ34000m²のスペースを確保し、去る38年6月16億5000万円の事業費で完成した。30分ほど内部を見て再び1号線にのり羽田空港へ向かう。休日ながら相当なラッシュであるがモノレールを左手に見て快適なドライブが続く。20分ほどで空港へつきフィンガーから全体を眺め

予定どおり16時ごろ解散。適当にモノレールに分乗して頂き浜松町駅へ帰った。

今回の催しにあたりご協力いただいた東京都、建設省関東地建、運輸省港湾局、首都高速道路公団、東京モノレールKKなどに対し紙上より厚く感謝の意を表します。

◀東海道見学会（バス旅行）▶

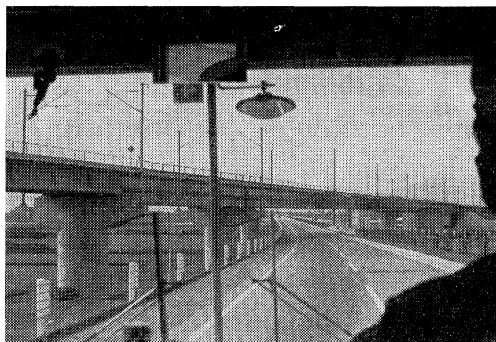
昭 39.11. 9 (月)~10 (火)

50周年を記念して4年ぶりに東海道をバスで走る計画を立てたところ参加者は予定の1/3たらず40数名にとどまったことは残念であった。35年秋、日本建設機械化協会と共催で二泊三日の旅程で東海道を走った当時は往復で300名近い方が参加されている。「だんだんスピードに押されてこういう旅行はぜいたくになりますなあ」という某氏の感慨がそのままあてはまるようでもある。

前日におとらない快晴の中を8時20分土木学会前からスタート、首都高速道路4号線、1号線を通り羽田から川崎、横浜市内を抜けて横浜バイパス、藤沢バイパスを通り大磯で海岸ぞいに走る西湘バイパス工事を見て沼津千本松原で昼食。静岡県のお厚意によるビールを御馳走になりながら鱻のタタキに舌つづみを打つ。予定より1時間以上おくれたので慌しい。14時ごろ出発して由比の地すべり、海岸道路工事を見ながら清水、静岡を通り一路宿泊地へ急ぐ。浜名湖を渡る頃にはすでにとっぷりと日が暮れ、雨も降り出し参加者も疲労の色が濃くなってゆく。20時すぎようやく宿舎の三谷温泉ふきぬき旅館へ転がり込みほっとする。一浴後、愛知県のおもてなしによる懇親会にのぞみ、あまり氣勢の上らないままに就寝。

昨日のミスをくり返さないために10日の行程は慎重に進めた。9時三谷をたち再び国道1号線へ出て一路名古屋へ、市内の主だった工事を車中であかがいながら、かつて日本一の道路率をほこった名古屋市内の道路が意外に混み出してきたのに驚ろく。予想よりはるかに車が多くなって、と市当局の顔もくらい。しかし他の都市にくらべればまだまだ余裕ありと見る。黄金町の複雑な立体交差を走りながらやがて名岐国道へ……最近完成した担々たる一本道を楽しんでいるうちに正面に名神高速道路一宮インターチェンジが見えてくる。左へう回して一宮市内で昼食をとり、時計を気にしながら再び一宮インターへ出て名神高速道路へ乗った。時速80kmをマークしながら公団の説明者に苦心談を伺いつつ滑るようにバスは進む。「何回のもとも名神は素晴らしい」とどなたかがほっと洩らされた。大垣、関ヶ原、彦根、八日市、栗東の各インターチェンジをすぎ大津で小憩。かすか

名神高速を車中より望む



(東京都水道局 長崎昭司氏撮影)

に霞む湖上に一筋、琵琶湖大橋が見えている。快晴である。午前中のおくれを名神で完全にとりもどし定刻どおり秋色の京都をすぎ豊中から大阪市内へ入る。新大阪駅を簡単に見て梅田へ。遅々としてバスが進まない。

17 時少しすぎ関西支部が設置された解散式場であるレストランへたどりつき早速ビールに渴をいやした。山崎支部長のあいさつに始まり、石田前支部長の司会による土木学会万才の三唱後それぞれ帰途についた。東名高速ができれば通しでまた企画してほしい。という皆様の言葉を実行するべく努力したい。

今回の一泊二日の旅行を終るに当り、準備その他で事務局の手落ちがあったことを心からお詫び致します。

最後にご協力いただいた日本道路公団、建設省、名古屋市、静岡県、愛知県、国鉄、土木学会関西支部などのご配慮に対し厚くお礼申し上げます。

■ 国土開発映画コンクールならびに巡回映画会 ■

国土開発映画コンクールの経過報告については、行事委員会の経過報告および本誌 49 巻 12 号のニュースで紹介したのでつきに入選作品 6 編の概要を記述する。

最優秀賞

銀座の地下る掘る

地下鉄日比谷線は、東京オリンピックまでに開通させなければならなかった。同線最後の未開通区間である東銀座一霞ヶ関間 1.7 km の短距離であるが、大繁華街「銀座通り」を横に切り、銀座地区では、地下鉄銀座線、丸ノ内線と立体交差して銀座メトロセンターを建設し、また日比谷地区では将来建設される地下鉄 6 号線と立体

交差するほか、国鉄高架下、高速道路橋下をくぐるといふ、地下鉄建設史上最大の難工事であった。建設工法は多岐にわたっているが、この工事の過程をわかりやすく記録し、銀座メトロセンターの完成とのびゆく地下鉄の姿を描いている。

優 秀 賞

羽田海底トンネル

この映画は首都高速道路 1 号線の羽田と森ヶ崎とを結ぶ海老取川の川口に建設された羽田海底トンネルにおいて、わが国では、その規模から初めて行なわれた巨大な鉄の函を沈める沈理工法を中心に描いたもので、海老取川の川口付近は羽田空港の滑走路に近いので高通制限が厳しく、またその水面は海への出入口として船の航路に当たっているため、かなりの桁下空間が必要となり橋梁を架設することは許されず、トンネルによって海老取川を横断することとなった。映画は沈理工法の施工状況をくわしく描き出している。

横山ダム工事

揖斐川は濃越国境にその源を発し、途中幾多の支流を合せながら、濃尾平野を縦断、木曾川、長良川とともに、いわゆる木曾三川として伊勢湾に注いでいる。しかしこの揖斐川は地理的に台風による出水が多く昔からその流域に大水害をあたえてきた。特に昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風の影響は甚大であったために揖斐川の治水を完全なものにするため洪水調節用のダムを建設することになった。映画は昭和 35 年にはじまった仮排水路工事から同 39 年ダム竣工までの 4 年間における工事の進行状態、工事に従事した作業員の労苦、それに土地の人々の生活を記録したものである。

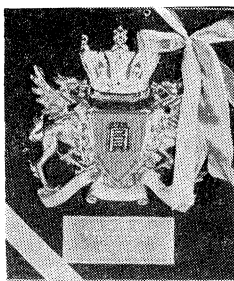
準 優 秀 賞

大阪環状線

大阪環状線の一環として、西成線の高架化が計画された。鉄道の周辺には大工場が立ち並び中央市場と結ぶ輸送路線として重要であるが阪神国道ほか 10 カ所の主要道路と平面交差しているため輸送保安の面から高架化が必要となった。工事は昭和 35 年に始まり、現在の電車を通しながらその上に高架橋を作るという世界でも初めての施工法で行なわれた、わずか 3 km の区間であるが巨額を投入して急速に工事が進められ昭和 39 年 3 月竣工したものである。

外洋にいどむ

茨城県東海村に日本最初の 15 万 kW の原子力発電所が計画されたが、最大の問題点は原子力発電によって生れる超高温熱を冷却するための冷却用水源をどこに求め



最優秀賞楯

るかという点にあった。最終案として海水を直接導入する構想が生れ水源は海ときまった。水路は発電所から海岸まで 300 m, 海岸から 500 m 沖合に取水口を設けることになった。海底に直径 2.5 m, 長さ 500 m の鋼管を沈設するこの工事は非常な難工事である。昭和 35 年 6 月着工以来 3 カ年をついやしたが映画は砂丘に形作られてゆく導水路の建設, 海岸に築かれる定着部のケーソン工法, 海部の工事, 鋼管の曳航と海底沈没作業等いくつかの新工法が紹介される。

海を渡る砂

大阪南港の臨海工業用地造成は大阪市の体質改善を目的に面積 7 056 000 m² の埋立地を造成する計画がすすめられてきた。昭和 38 年第 3 工区を造成するにあたり防波堤, 護岸等の基礎置換砂, サンドパイル, サンドマット, 上置砂れきの所要砂として総量 1 600 万 m³ におよぶ良質砂を安く大量に獲得するため香川県豊島沖を採砂予定地に決定し, 1 000 HP カッターレス式しゅんせつ船と大型サンドキャリアーとの組合せにより延長 150 km におよぶ長距離送砂方式を確立したもので, 採取, バージへの積込み, サンドキャリアーに吸揚機満載, 海上輸送, 底開式バージ積卸し, 海底投下等の作業が克明に描写されている。

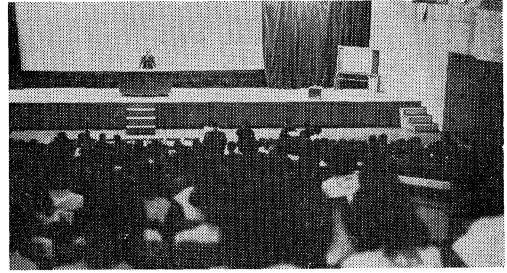
× × ×

なお, これらの入選作品は 11 月 10 日から 12 月 11 日の 1 カ月にわたりつぎの 18 会場でそれぞれ上映された。各会場での入場者は表のとおりである。

巡回映画観覧者

会 場	一 般	高 校	中 学	計
札幌	50	500		550
釧路	50	250		300
仙台	70		330	400
金沢	50	30		80
高松	100	450		550
神戸	80	1 300		1 380
京都		800		800
大阪	50	980	360	1 390
福岡	70	300		370
広島	300			300
名古屋	70		800	870
(地方計)	890	4 610	1 490	6 990
品川	50			50
杉並	50		600	50
大田	10	120		130
新宿	50		600	650
小金井	50		650	700
川崎	50	400		450
豊島	100		500	600
(東京計)	360	520	2 350	3 230
合 計	1 250	5 130	3 840	10 220

巡回映画会会場全景



■ 土木学会 50 周年記念親善ゴルフ会 ■

小山カントリークラブ 昭 39.11. 5 (木)

学会創立 50 周年記念式典の前夜祭として 11 月 5 日 (木) 親善ゴルフ会が催された。申込者は 54 名におよんだが, 当日実際に参加されたのは 40 名であった。幸いにして好天に恵まれ晩秋の陽光を浴びながら, 紅葉した雑木林と緑の芝生の小山カントリークラブで, 浮世の雑事をしばし忘れて楽しい 1 日を過したのであった。

当日出席された方のうち土木学会の前会長は, 鈴木雅次, 平井喜久松, 菊池 明, 内海清温, 田中茂美の 5 氏で福田現会長を加えると会長の肩書をもつ方が 6 人もいるという豪華版であった。このほかの大先輩としては, 金子源一郎, 空閑徳平, 中島時雄, 井関正雄, 町田 保名, 須川秀二, 立花次郎, 高木 進, 佐藤九郎の各氏などで大正卒業者が 12 人もおり, 皆壮者をしのぐ元気さには感心させられた。

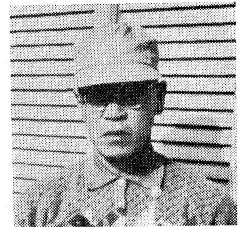
競技は 18 ホールズ メタルプレーで行なわれたが, 1 ラウンドでは物足らず, さらに全員ハーフを回るという張り切りようであった。

優勝は寺島重雄氏 (前建設省下水道課長 現在荏原製作所顧問, 北大 11 卒) で out 47, in 49 で net は under par 71 であった。

2 等空閑徳平氏 1 点差, 3 等小川新市氏 1 点差, 4 等有江義晴氏は同点なるも先輩に

3 等を譲り, 5 等は 2 点差 75 で菊池 明氏であった, ベストグロスは, ハンディ 11 の中島 武氏, プービーは大先輩の金子源一郎氏, 前会長も飛賞などに当り, あとの懇親会は皆童心に返ってまことに和気あいあい学会 50 周年にふさわしいなごやかさであった。

優賞の寺島氏



創立 50 周年記念事業資金寄附応募者芳名録

(昭和 39 年 11 月 30 日受付分まで、敬称略)

団 体 の 部

総合建設業

千円

- 1500 K K 大林組 (大阪府)
- 1500 鹿島建設 K K (東京都)
- 1500 清水建設 K K (")
- 1500 大成建設 K K (")
- 1500 西松建設 K K (")
- 1500 前田建設工業 K K (")
- 1000 K K 奥村組 (大阪府)
- 1000 佐藤工業 K K (東京都)
- 1000 飛島土木 K K (")
- 1000 三井建設 K K (")
- 800 鉄建建設 K K (")
- 800 K K 藤田組 (")
- 500 酒井建設工業 K K (")
- 500 白石基礎工事 K K (")
- 500 住友建設 K K (")
- 500 大豊建設 K K (")
- 500 戸田建設 K K (")
- 500 日本国土開発 K K (")
- 500 日本舗道 K K (")
- 500 ブルドーザ工事 K K (大阪府)
- 500 K K 森本組 (")
- 400 K K 浅沼組 (")
- 400 K K 竹中工務店 (")
- 300 伊藤組土建 K K (北海道)
- 300 K K 大本組 (岡山県)
- 300 大鉄工業 K K (大阪府)
- 300 大日本土木 K K (岐阜県)
- 300 K K 地崎組 (北海道)
- 300 中国土木 K K (岡山県)
- 300 日産建設 K K (東京都)
- 300 村上建設 K K (")
- 300 K K 森組 (大阪府)
- 250 川田工業 K K (東京都)
- 200 東鉄工業 K K (")
- 150 東急建設 K K (")
- 150 野村工事 K K (")
- 100 秋島建設 K K (")
- 100 朝日土木 K K (")
- 100 勝村建設 K K (")
- 100 小松建設工業 K K (")
- 100 日本道路 K K (")
- 100 K K 福田組 (新潟県)
- 50 大木建設 K K (東京都)
- 50 世紀建設 K K (")
- 50 大成道路 K K (")

- 50 東亜道路工業 K K (東京都)
- 50 日本機械土木 K K (神奈川県)
- 50 K K 富士工務店 (東京都)
- 50 K K 渡辺組 (")
- 30 一ノ谷建設 K K (")
- 30 佐田建設 K K (群馬県)
- 30 三信建設工業 K K (東京都)
- 30 白井建設 K K (神奈川県)
- 30 成和土木 K K (東京都)
- 30 大有道路建設 K K (愛知県)
- 30 東洋舗装 K K (東京都)
- 30 常盤工業 K K (")
- 30 日本瀝青工業 K K (")
- 30 松本瀝青工業 K K (")
- 10 藤田建設 K K (")

埋立業

- 700 東亜港湾工業 K K (東京都)
- 700 K K 水野組 (")
- 400 三井不動産 K K (")
- 350 東洋建設 K K (大阪府)
- 320 若松築港 K K (東京都)
- 300 K K 臨海土木工業所 (")
- 280 大都工業 K K (")
- 250 国土総合開発 K K (")
- 200 佐伯建設工業 K K (大阪府)
- 200 東海臨港開発 K K (愛知県)
- 190 森田臨海工業 K K (大阪府)
- 175 株木建設 K K (東京都)
- 60 日本土地開発 K K (")
- 60 芙蓉開発 K K (")
- 30 垂細垂濑 K K (")

橋梁業

- 250 汽車製造 K K (東京都)
- 250 日本橋梁 K K (大阪府)
- 250 K K 宮地鉄工所 (東京都)
- 250 K K 横河橋梁製作所 (")
- 200 K K 駒井鉄工所 (大阪府)
- 200 高田機工 K K (")
- 200 松尾橋梁 K K (")
- 150 川田工業 K K (富山県)
- 150 桜田機械工業 K K (東京都)
- 150 滝上工業 K K (")
- 150 日立造船 K K (大阪府)
- 100 浦賀重工業 K K (東京都)
- 100 川崎重工業 K K (兵庫県)
- 100 K K 呉造船所 (東京都)
- 100 K K 東京鉄骨橋梁製

作所 (東京都)

- 100 日本鋼管 K K (")
 - 50 日本車輛製造 K K (愛知県)
 - 50 函館 Dock K K (東京都)
 - 50 K K 春本鉄工所 (大阪府)
- ### 水門鉄管業
- 300 K K 酒井鉄工所 (大阪府)
 - 300 K K 田原製作所 (東京都)
 - 30 K K 丸島水門製作所 (大阪府)

電力業

- 2500 電気事業連合会 (東京都)
- 600 電源開発 K K (")
- 100 日本原子力発電 K K (")
- 50 荒川水力電気 K K (")
- 50 黒部川電力 K K (")
- 50 姫川電力 K K (")

鉄道業

- 200 小田急電鉄 K K (東京都)
- 200 近畿日本鉄道 K K (大阪府)
- 200 京阪神急行電鉄 K K (")
- 200 京阪電気鉄道 K K (")
- 200 帝都高速度交通営団 (東京都)
- 200 東京急行電鉄 K K (")
- 200 東武鉄道 K K (")
- 200 名古屋鉄道 K K (愛知県)
- 200 南海電気鉄道 K K (大阪府)
- 200 西武鉄道 K K (東京都)
- 200 阪神電気鉄道 K K (大阪府)
- 150 京成電鉄 K K (東京都)
- 150 京浜急行電鉄 K K (")
- 50 三重電気鉄道 K K (三重県)
- 30 神戸高速鉄道 K K (兵庫県)
- 30 相模鉄道 K K (神奈川県)
- 30 山陽電気鉄道 K K (兵庫県)
- 20 秩父鉄道 K K (埼玉県)
- 10 長野電鉄 K K (長野県)

鉄鋼業

- 300 日本鋼管 K K (東京都)
- 300 富士製鉄 K K (")
- 300 八幡製鉄 K K (")

建設機械業

- 1000 石川島播磨重工業 K K (東京都)
- 1000 K K 日立製作所 (")
- 1000 三菱重工業 K K (")
- 800 K K 小松製作所 (")

協会

- 1000 日本道路建設業協会 (東京都)

1000	プレストレストコン クリート工業協会 (東京都)	50	仙建工業KK (宮城県)	30	日本ドライブイット KK (東京都)
700	建設コンサルタンツ 協会 (")	50	中央開発KK (東京都)	30	復興建設技術協会 (大阪府)
100	コンクリートポール パイル協会 (")	50	KK留岡組仙台営業 所 (宮城県)	30	北越ヒューム管KK (新潟県)
100	全国コンクリート製 品協会 (")	50	日曹マスタービルダ ーズKK (東京都)	30	北成建設KK (北海道)
100	ヒューム管協会 (")	50	日本瀝青工業KK (")	30	直柄建設KK (石川県)
100	フライアッシュ協会 (")	50	不動建設KK (大阪府)	30	松尾建設KK (佐賀県)
その他		50	富士車輛KK (")	30	名工建設KK (愛知県)
50	名古屋港管理組合 (愛知県)	50	北炭建設KK (北海道)	30	八幡金属加工KK (東京都)
50	三菱信託銀行KK (東京都)	50	KK増岡組 (広島県)	30	KK山田工務店 (")
30	基礎地盤コンサルタ ンツKK (")	50	丸善KK (東京都)	20	KK相原組 (広島県)
30	KK山海堂 (")	50	三井金属鉱業KK (")	20	KK市川工務店 (岐阜県)
30	治水工業KK (大阪府)	50	三井鉱山KK (")	20	上野大和建設KK (東京都)
20	KK越智組 (愛媛県)	50	三井地所KK (")	20	王子重工業KK (")
20	KK関西土地 (高知県)	50	三菱地所KK (")	20	梶谷調査工事KK (")
20	KK姫野組 (徳島県)	50	水資源開発公団 (")	20	KK木村組 (北海道)
20	藤本建設KK (高知県)	50	村井建設木材工業 KK (北海道)	20	山陽工業KK (広島県)
10	海外通商KK (東京都)	50	八幡鋼管KK (東京都)	20	鈴木金属工業KK (東京都)
10	近代図書KK (")	40	札建工業KK (北海道)	20	KK千代田コンサル タント (")
10	KK好学校 (")	40	KK田中組 (")	20	常磐炭砒KK (")
10	東京コンサルタンツ KK (")	40	不二建設KK (")	20	東海興業KK (")
10	KK轟組 (高知県)	40	北興工業KK (")	20	東京製綱KK (神奈川県)
10	KK日進社写真製版 所 (東京都)	30	KKエービーシー商 会 (東京都)	20	東邦技術KK (秋田県)
10	KK林組 (徳島県)	30	荏原建設KK (")	20	東北ポールKK (福島県)
10	森北出版KK (東京都)	30	KKオーム社 (")	20	徳永工業KK (京都府)
10	柳生建設KK (高知県)	30	KK大滝工務店 (")	20	中川防蝕工業KK (東京都)
特別会員		30	岡崎工業KK (福岡県)	20	KK日本開発設計事 務所 (")
100	旭化成工業KK (東京都)	30	KK加藤製作所 (東京都)	20	日本ブロック建設 KK (広島県)
100	KK技報堂 (")	30	KK神崎組 (兵庫県)	20	広鉄工業KK (")
100	KK共栄通信社 (")	30	木田建業KK (東京都)	20	北海道軌道施設工業 KK (北海道)
100	千代田化工建設KK (")	30	極東鋼弦コンクリ ート振興KK (")	20	KK北都組 (石川県)
100	日東建設KK (")	30	京福電気鉄道KK (京都府)	20	堀川土建工業KK (山形県)
100	日本道路公団 (")	30	KK小牧組 (鹿児島県)	20	升川建設KK (")
100	矢作建設工業KK (愛知県)	30	康和建設KK (東京都)	10	KKアルス製作所 (徳島県)
70	岩田建設KK (北海道)	30	国際建設KK (山梨県)	10	KK和泉組 (山口県)
70	古久根建設KK東北 支店 (宮城県)	30	太平工業KK (東京都)	10	揖斐川工業KK (岐阜県)
70	大同コンクリート工 業KK (東京都)	30	第一建設工業KK (新潟県)	10	揖斐川電気工業KK (")
70	北海道開発コンサル タントKK (北海道)	30	千歳土建KK (北海道)	10	宇部市水道局 (山口県)
50	岩倉組土建KK (")	30	トビー工業KK (東京都)	10	大島工業KK (神奈川県)
50	KK片山鉄工所 (大阪府)	30	東急コンクリート工 業KK (")	10	KK大場土木建築事 務所 (東京都)
50	川崎製鉄KK建設資 材研究室 (東京都)	30	東京索道KK (")	10	KK加藤組 (神奈川県)
50	岐阜県建設業協会 (岐阜県)	30	KK中村組 (静岡県)	10	KK栗原組 (秋田県)
50	共和コンクリート工 業KK (北海道)	30	西田工業KK (京都府)	10	KK桑沢組 (北海道)
50	静岡鉄道KK (静岡県)	30	KK西原環境衛生研 究所 (東京都)	10	新日本窒素肥料KK 水俣工場 (熊本県)
		30	日本コンクリート工 業KK (")	10	中央特殊工事KK (東京都)
		30	日本セメント技術協 会 (")	10	東海鋼材工業KK (愛知県)
		30	日本石油KK (")	10	東新コンクリート工 業KK (東京都)
		30	日本綜合防水KK (")	10	KK東洋パイルヒユ

ーム管製作所東京出	200	長	野	県	都	市		
張所 (東京都)	200	京	都	府	300	横	浜	市
10 K K 巴組鉄工所 (")	200	広	島	県	300	名	古	屋
10 日本ガス圧接 K K (")	200	福	岡	県	300	大	阪	市
10 日本建機 K K (")	100	青	森	県	300	神	戸	市
10 日本特殊土木工業 K K (")	100	茨	城	県	200	京	都	市
10 北海道開発工業 K K (北海道)	100	栃	木	県	100	仙	台	市
10 吉野理化学工業 K K (東京都)	100	群	馬	県	100	岐	阜	市
10 菱和コンクリート工	100	東	京	都	100	広	島	市
業 K K (")	100	東	京	都	50	甲	府	市
5 K K 明和土木設計事	100	東	京	都	50	奈	良	市
務所 (")	100	富	山	県	50	佐	世	保
都道府県	100	石	川	県	5	小	樽	市
300 北 海 道	100	山	梨	県	合	計	56 015 000	円
300 神 奈 川 県	100	岐	阜	県	現	物	寄	附
300 愛 知 県	100	滋	賀	県	図	書	19 冊	K K 鹿島研究所
300 大 阪 府	100	島	根	県				出版会 (東京都)
200 埼 玉 県	100	徳	島	県	表	紙	1 000 部	実教出版 K K (")
	100	長	崎	県				

コンクリートパンフレット

—御一報次第図書目録進呈—

翻訳 4	コンクリート舗装の設計	67号	コンクリートを造るコツ
	関西道路研究会 コンクリート舗装委員会訳 100円 円 10		吉田徳次郎博士遺稿集 60円 円 10
75号	プレパックドコンクリート	66号	砂 防 ダ ム
	赤塚雄三氏執筆 150円 円 40		木村正昭氏執筆 60円 円 10
74号	放射線しゃへい用 コンクリートの施工	65号	コンクリートの施工と試験
	大村道夫氏・磯康彦氏執筆 150円 円 40		山田順治氏執筆 60円 円 10
71号	ソ イ ル セ メ ン ト	64号	放射線しゃへい用 コンクリートの基礎知識
	竹下春見氏執筆 100円 円 20		白山和久氏執筆 60円 円 10
70号	コンクリート用骨材	62号 } プレストレスト 橋の架設 (上)	
	伊東茂富氏執筆 100円 円 20	63号 }	コンクリート 橋の架設 (下)
68号 } 水門の設計と施工 (上)			小寺重郎氏・野口 功氏執筆 夫々60円 円 10
69号 }		61号	コンクリート道路指針 (問答集)
	西畑勇夫氏執筆 夫々60円 円 10		近藤泰夫氏訳 60円 円 10

セメント技術年報 (昭和 39 年度) B・5判 544 頁 1000 円 (円 100)

東京都港区赤坂台町1番地
振替東京 196803・電 (583) 8541 (代表)

日本セメント技術協会

創立 50 周年記念事業資金寄附応募者芳名録

(昭和 39 年 11 月 30 日受付分まで、敬称略)

個人会員の部

50 000 円

宮本 保

30 000 円

岡部 三郎

13 000 円

石川 六郎

10 000 円 (計 14 名)

稲浦 鹿蔵 大石 勇

永田 年 西原 脩三

南野 繁夫 萩原 俊一

米田 正文 渡辺喜三郎

8 000 円 (計 2 名)

杉戸 清 西松 醇厚

6 000 円 (計 10 名)

太田佐久良 鈴木 雅次

出島嘉記知 野瀬 正儀

椋本 修造 横道 英雄

5 000 円 (計 45 名)

阿部 一郎 青木 楠男

池辺 稻生 江口 馨

岡本 舜三 奥住 重義

久保田敬一 佐藤卯三郎

田中 五郎 田淵 寿郎

高畑 政信 鷹部屋福平

鶴岡 鶴吉 長 尚

内藤 多仲 中島 武

橋本 敬之 服部 正一

藤村久四郎 堀 威夫

水谷 当起 守本 建一

渡辺 新三

4 000 円 (計 3 名)

熊丸 好行 速水頌一郎

3 500 円

藤井 武志

3 000 円 (計 749 名)

安倉 安範 安藤 四良

安藤 秀夫 足立 正俊

阿部美樹志 相川重三郎

青木 栄 青笹慶三郎

秋山 和夫 秋山 克巳

浅尾 格 棟 寿

天竺 良吉 綾 亀一

荒井 力 荒井利一郎

有光 壬辰 鮎川 貞治

井内 万治 井沢 五郎

五十嵐醇三 五十嵐真作

伊藤 信 伊藤 清一

伊藤 義男 伊藤 令二

高橋 三郎 種谷 実

西松 三好 宮地 武夫

原口忠次郎 藤井松太郎

田中清太郎 高橋 勝雄

姫野 正 福留 並喜

飯吉 精一

岡田 信次

菊池 英彦

末松 栄

高橋 泰介

武井 篤

徳善 義光

羽田 巖

福田 武雄

前田 一三

米屋 秀三

三浦 義男

安藤 隆敏 安藤忠水郎

阿曾沼 均 阿部 謙夫

相川 晴治 相川 正義

秋草 勲

芥川 裕司

天方 正彦

新井 敬造 新井 義輔

荒木 栄二 荒木 謙一

井上清太郎 井上 安友

井関 正雄 井深 功

伊藤 定一 伊藤 純三

伊藤楨次郎 伊藤茂利三

飯 敏夫

土木学会創立五十周年記念事業・寄付者名簿 (五十音順・敬称略)

飯島 三良

飯田房太郎

池上 武常

石田啓次郎

磯野 隆吉

板橋 三郎

泉 弥四郎

稲葉 勝臣

今井 四郎

岩井 四郎

岩本 常次

上ノ土 実

上村 博愛

内海 清温

内田 襄

内林 達一

江崎 義人

遠藤 虎松

小川敬次郎

小沢 章三

小野 基樹

小宅 習吉

越智荒太郎

大岡 礼三

大島 満一

大塚浅次郎

大野 台助

大森 頼雄

岡崎 三吉

岡本 港

奥村 敏恵

加藤 一衛

加藤 米蔵

具原 栄

笠原 七郎

片岡 末男

金井 清

金子 枉

叶 儀

神谷 貞吉

川口 正弘

川西 完

河口 協介

木戸 鎮朔

木村 英夫

菊地 朝夫

北村市太郎

工藤 久夫

飯島 十郎

飯田 義英

池谷 一雄

石田 聖

板垣 正男

市浦 繁

稲垣 茂樹

稲葉権兵衛

今井 久雄

岩尾 兼雄

鷗飼 孝造

上野 省二

上村 義夫

内田 黍郎

内田 弘四

内村 三郎

榎本 萬里

遠藤 弘

小川 譲二

小田 仁

小野 喜治

尾崎 義一

生出 久也

大塩政治郎

大竹 邦平

大槻 勝雄

大橋 健一

太田尾広治

岡林 稔

岡本 全男

奥山 角蔵

加藤 伴平

加藤田敬太

笠原 篤三

片岡 武

金井 邦夫

金沢 節

蒲 孚

神田 一雄

川久保重政

河合 毅一

河野 康雄

木原 栄造

木村又左衛門

菊池五男利

吉川 吉三

九里 良介

飯田 薫

飯田竜左衛門

石井頼一郎

石野 明

板垣 隆義

市川喜与治

稲垣 力松

稲葉 通彦

今岡 鶴吉

岩田 清

上田健太郎

上原 正

上山鉄之助

内田 貴英

内田 政義

内山 実

遠藤 巖

遠藤 又吾

小川 新市

小田川利嘉

小野 諒兄

尾田 利一

大石 重成

大島 太郎

大谷 英

大坪喜久太郎

大林 勇治

岡 一衛

岡本 但夫

奥田 秋夫

落合 林吉

加藤 正晴

加納 俊二

柿 徳市

梶谷 薫

桂 博之

金子源一郎

金光 稔

栢下 春平

川勝常次郎

川越 光栄

河合 光榮

河村 協

木村 弘

亀卦川振興

菊田 外次

橋内 徳治

久保 建次

飯田 清太

飯淵 一

石上 立夫

石原藤次郎

板倉 忠三

市村 益夫

稲積 豊二

猪瀬 寧雄

今川 晃

岩永 義美

上戸 斌司

上原要三郎

氏家 文弥

内田 寿雄

内野喜三郎

梅沢 健吉

遠藤 貞一

遠藤 靖

小沢久太郎

小野 早苗

小見 喜平

尾之内由紀夫

大内 勘助

大島 秀信

大谷 勝

大西 朝男

大村 寛

岡崎 寿彦

岡本東一郎

奥田 教朝

表 三郎

加藤三重次

香月登喜雄

垣本 一之

片岡 謙

桂川 輝長

金子 收事

兼重 信雄

萱野 忠正

川口 克久

川床 一雄

河上 房義

木戸 熊夫

木村 平

菊池 明

岸 栄

京極 醇而

久保 直志

久保 義光	久保田敬一	久保田 実	久保田 豊	鶴岡 徳藏	鏡 靖司	寺岡 初	寺島 重雄
空閑 徳平	草間 偉	国富 忠寛	熊川 信之	照井隆三郎	土井源三良	戸谷 信雄	遠山 幸三
黒川 弘喜	黒川 幸成	黒田 重治	黒田 静夫	藤樫 博暁	徳岡 堅三	徳重 正雄	常峰 潔
黒田 武定	黒田 秀雄	桑山 三郎	玄間政次郎	富家 欣吾	富樫 凱一	富田 恵吉	富永 正義
小池 賢一	小池 蒼	小金丸義雄	小島 兼文	友田 清三	友永 和夫	友原 繁	那須 信治
小西 一郎	小林 幸治	小林仁兵衛	小林 二郎	奈須川丈夫	奈良部亀松	中尾 光信	中川 雅央
小林 紫朗	小林 重一	小林 武雄	小林 肇	中倉専一郎	中沢 安蔵	中路 誠三	中島 重雄
小林 正雄	小林 光鎮	小林 泰	小林 嘉道	中島 時雄	中田 勝一	中田 正	中谷 茂一
小日山信吉	小牧 才二	小松 新平	小味淵 肇	中西 讓平	中原寿一郎	中原 武	中村 貢治
古賀 登	後藤 清	後藤 憲一	後藤 茂	中村信治郎	中村 正	中村 房吉	中村 廉次
後藤 壮介	後藤 正司	河野 要	高坂 紫朗	中安 米蔵	中山 吉次	永井 時一	長坂 一彦
高津 俊久	国分 正胤	越野 栄達	米谷 栄二	長沢 道行	長瀬 新	長浜 時雄	長久程一郎
今 俊三	近藤 勇	近藤市三郎	近藤 健武	成瀬 薫	南部 稔	南保 賀	二宮 錠治
近藤謙三郎	近藤 信一	近藤 博文	近藤 泰夫	仁杉 巖	丹羽 良彦	新島 幸雄	新妻 幸雄
佐々木一士	佐々木 茂	佐々木 銑	佐島 秀夫	西尾 辰吉	西沢 治	西島 尚義	西畑 正倫
佐瀬 七郎	佐藤 九郎	佐藤 源蔵	佐藤 健吾	西部 友吉	西松 康友	西村 敏男	西村 豊
佐藤 志郎	佐藤周一郎	佐藤 信一	佐藤 清治	西本 正	沼田 政矩	根本 吉政	野坂 相如
佐藤忠三郎	佐藤 豪	佐藤 輝雄	佐藤十五郎	野田 和郎	野田 甕六	野田多喜雄	野中 武義
佐藤 寛政	佐藤 康治	西藤 友男	齐藤孝二郎	能登 尚平	羽賀 正義	芳賀 公介	長谷川寛一
齐藤 静脩	齐藤 武幸	坂上丈三郎	坂田 静雄	長谷川 栄	長谷川盛一	長谷川義彦	波多江 寿
坂本 貞雄	坂本 龍雄	坂本 信雄	阪西徳太郎	馬場 宗光	袴田 恒夫	萩原 貞次	橋川 保
酒井 忠明	堺 毅	境 隆雄	笹森 巽	橋本 敏男	畑中 次雄	畠山 実	初谷菊太郎
沢井八洲男	沢田 詮亮	沢竹 慶三	鯨島 午吉	花井又太郎	埴田 清勝	浜田一太郎	浜田 日吉
鮫島 茂	山東 盛彦	四十万小祐	四野宮哲郎	浜地 辰助	浜野松五郎	早川 透	早田 英夫
志賀 豊	志賀 正臣	志道 鏡造	志関 秀雄	林 千秋	原田 千三	原田 正夫	比企 元
清水 勝馬	清水 孝	清水 力	清水 治長	肥後 春生	樋浦 大三	美藤 義利	東 善郎
清水 又一	清水 源長	清水 雄吉	重松 愿	東村 一朗	百武 定一	平井弥之助	平尾 勝
七田 茂	篠田宗次郎	篠原 謹爾	柴田悦太郎	平野生三郎	平松 頼夫	広瀬孝六郎	広田 一郎
島崎 孝彦	嶋津 静雄	嶋野 貞三	嶋原暢六郎	広田 孝一	深井 浩三	深井 久男	深谷 宗吉
下村 節義	庄司 光	城塚 孝雄	浄法寺朝美	深谷 俊明	福岡 正巳	福塚 清	福光 昂
新見 忠	新谷 金蔵	末延 藤夫	末森 猛雄	伏島信九郎	藤井 虎男	藤田亀太郎	藤田 駿吾
杉木 六郎	杉本 培吉	杉本 三吾	鈴木 勇	藤田 久	藤田 博愛	藤田 真	藤野 義男
鈴木 嘉修	鈴木角一郎	鈴木祥六郎	鈴木 清一	藤原 儀平	藤本 得	藤森 謙一	古市千太郎
鈴木 信孝	鈴木 武門	鈴木 和平	住谷 秀夫	古庄誠一郎	星 治雄	星 莖 和	星野 九平
角田 敏雄	瀬古 新助	瀬田 一雄	瀬藤 智雄	星野 茂樹	星野 陽一	堀 龍雄	堀江 清司
関 一雄	扇田 彦一	善如寺秀太郎	宗宮 義正	堀越 清六	本莊 秀一	本田 栄吉	本間 繁雄
傍島 湊	田井 九一	田口 武一	田坂 栄美	真井 耕象	真嶋 恭雄	前島 健雄	前園千代次
田島 武夫	田代 隆亮	田所 文男	田中 鑑	前田栄太郎	前田 繁久	前田 直方	前田 幸雄
田中 武夫	田中 寅男	田中 吉郎	田中 寛二	牧 直	牧野雅泰之丞	幕田 貞夫	正子 重三
田辺 弘	田原 保二	田卷 昌雄	田丸陸太郎	増田 重臣	松井 達夫	松尾新一郎	松尾 春雄
田村 啓三	田村 信義	多田 義雄	高井 信一	松尾 永	松尾 博茂	松尾 守治	松尾 愛亮
高木 薫	高木 健	高岸 懋	高久 近信	松岡 道男	松垣 一夫	松田勘次郎	松田 隆直
高島 一郎	高瀬 正	高田 昭	高田 実	松田 久雄	松波 和彦	松野 辰治	松見 三郎
高野 民夫	高野 俊介	高野 務	高野 義雄	松村 丈夫	松村 孫治	松本 金吾	松本 邦頭
高橋 出水	高橋嘉一郎	高橋 光蔵	高橋 甚也	松本 正三	町田 保	町田久寿男	町田 義知
高橋末治郎	高橋 誠一	高橋敏五郎	高橋 憲雄	丸山 勤治	三浦文次郎	三沢 浩	三橋虎之助
高林 利秋	高谷 高一	都木 清	滝尾 達也	三村 通精	三宅静太郎	身崎寅三郎	見山 剛
竹内 一雄	竹内 季雄	竹内 宮竹	竹田 生治	御厨 春男	水越 達雄	水谷 諭吉	水野 高明
竹田 秀美	竹中 徳	武井 茂	武居高四郎	道越 昇	翠川 巖	湊 留二	南 俊次
武内 修	武田 利雄	武田 平七	武田 真	宮川 正雄	宮北 敏夫	宮崎 雪衛	宮崎 義成
武田 甚吉	武田 良一	武本光太郎	立花 次郎	宮沢 吉弘	宮下 寿雄	宮地 栄三	宮永 敏夫
橘 好茂	巖 巖	顰 継男	谷口 成之	宮部 正治	武藤 幸一	村 幸雄	村尾 恭一
谷藤 正三	玉井 正彰	丹後 吉雄	丹治 経三	村上 正	村上兵四郎	村上 元紀	村瀬 達
千田 勝運	千葉 英夫	津田 理	月岡 正三	村上 順治	村上 朔郎	目黒 清雄	目黒 雄平
辻井富之助	辻川 勝雄	土田 恂一	土本 義雄	毛利 游三	茂木 亮	最上 武雄	舞木 諦

守井 敏雄	守田 道隆	守屋 定	森 勝之助	高橋 裕	滝 瀧司	竹内 俊雄	武 一大
森 幸治	森 四郎	森 茂	森 助治	武田 武男	武田 和吉	武本 恒夫	立花 芳三
森 豊吉	森 芳夫	沢森 勇	森島宗太郎	谷口 清治	谷口 敏雄	谷口 秀義	玉木 寅彦
森田 定市	諸井 英一	八東 利敬	矢崎 道美	千葉 修敬	原重太郎	都志見克巳	辻川 秀夫
矢内 保夫	矢野 勝正	谷井陽之助	安田 卓治	土谷 実	戸津 正一	戸津 光也	土志田謙彦郎
安成 季隆	安仲小次郎	柳沢 米吉	山内 一郎	富山 種男	友岡 友介	鳥内 修二	中岡 二郎
山内 丈夫	山岡 順二	山崎 慎二	山崎 浩	中川 博	中田 一幸	中野喜久夫	中村作太郎
山崎 博	山下 秀男	山田 正平	山田 武治	中村 毅	永井 勉	永田 泰	永田 幸義
山田 正男	山本 格	山本幸三郎	山本 竜也	長崎 昭司	橋村 邦雄	成瀬 正成	縄田 守
山本 三男	山本 幸夫	由良 勇	横田 周平	西海 芳郎	西嶋 国造	西畑 勇夫	西畑 忠雄
吉川 久蔵	吉田 太郎	吉田 赳	吉田 友文	西村 義一	野崎 次雄	野中 八郎	信沢 貞治
吉田朝次郎	吉田光太郎	吉田 吉秋	吉田 良雄	長谷川正勝	馬場 森男	靄島 治郎	秦 三生
吉松 精一	吉村 善臣	米井 正敏	米村新之助	服部 高景	原田 拓三	日向野良世	広田 兼賀
米元 晋一	米元 卓介	和久 英雄	和沢 清吉	広田 久重	広滝 常雄	深草 末松	福井 貞雄
和田 恒広	和里田新平	渡部 弥作	渡辺市太郎	福田 久勝	藤田 一雄	藤田 圭一	藤本 治義
渡辺 利光	渡辺 寅雄	渡辺 信雄	渡辺 秀幸	藤本 盛久	二松 慶彦	淵上 覚	古山 剛三
渡辺 浩				星野 紀通	堀 武男	堀井健一郎	堀内 敏行

2 800 円

杉田有一郎

2 500 円

徳平 淳

2 000 円 (計 250 名)

安齋東太郎	安東 功	安藤 新六	安藤 良助
足立 昭平	赤堀 三郎	篤 朝太郎	新井 止郎
荒谷 俊司	栗田 龜造	井上 静三	井上 忠熊
五十嵐 幹	伊丹 康夫	伊地知綱彦	伊藤 剛
飯田 三郎	石倉 寛治	石田 芳秋	石橋 豊
一原 弘	一柳 文二	市嶋 武視	稲辺 謙作
岩崎 善吾	岩塚 良三	岩永 俊彦	宇野 周三
上田 貞三	上野 勇	内田 隆滋	占部 清
浦上 衛門	江崎 善愛	海老 修実	枝松 鷹次
枝松 敏邦	遠藤 巖	小沢 要作	小野 一良
小野木次郎	小原 福二	尾上 哲介	尾台 三吉
大串 満馬	大槻 勇	大宮左衛門	大村 敏雄
大森 俊信	岡 巖一	岡田 清	奥田 義雄
奥野多喜夫	表 俊一郎	加藤 清一	片岡 明
片岡 義彰	勝原 亨三	金井 朋次	金子 茂
金谷 明	鎌田 亮	神山 一	紙谷 齋治
狩野徳太郎	川合 友重	川崎 守	川田 卓三
川又 久夫	河辺 義昭	木林 健	菊田 清六
岸 忠男	岸 恒治	北島 明	北田 霞
久保慶三郎	久保 譲	久保田正秋	貝嶋太三郎
草部 一来	熊井 知次	熊谷 一郎	黒井 俊治
黒田幸一郎	桑原 竹二	小土井善雄	小林 謙二
小松原 豊	児玉 武三	河野 成	高 敏郎
近藤 繁人	近藤 武義	佐々木大策	佐藤 健吉
佐藤 繁次	佐藤 修三	佐藤 清一	佐藤 晴吉
佐藤 隆治	戈賀 芳蔵	齋藤 光雄	齋藤 隆一
坂口麗紀夫	酒井清太郎	作田 祐真	桜井 豊三
笹川恭三郎	榎 茂弘	柴田 安恵	下間 伸郎
庄野 勝	須之内文雄	須藤 見一	杉江 伝六
杉尾捨三郎	杉山 光郎	鈴木 富蔵	鈴木 倫虎
鈴木 釵郎	住 喜太郎	住友 彰	住野 理
田井 秀雄	田内 俊	田代 信雄	田代 福一
田中 治雄	田中 行男	高桑鋼一郎	高橋 光

1 800 円

沼田 耕一

1 500 円 (計 751 名)

安芸 元清	安達 武雄	安部 清孝	安西 登
安藤 正人	安沢 俊二	足立 貞彦	阿部 泰彦
阿座上 新吾	相沢郁之進	青木 謙三	青木 康夫
青木 美寛	青島 弘	青谷 健一	赤尾 新助
赤沢 稔	赤野 豊	秋元 力	秋和 政雄
浅井 保平	浅川 亮吉	浅田 興作	浅見 重夫
朝日 明	敦見 吉夫	厚見 慎一	穴釜 正吉
雨宮 敏男	網本 克己	新井 博	新木 豊太
荒井 章	荒田 哲弥	有本 優	栗津 清蔵
栗野原広一	井上 進	井上 広胤	井上 道夫
井部 勇一	五十嵐信一	伊地知堅一	伊槻 健
伊東 三郎	伊藤寛一郎	伊藤 敏一	伊藤光三郎
伊藤伸一郎	伊藤 哲朗	伊藤 徳彦	伊藤 甫
伊藤 直行	伊藤 道夫	伊吹山四郎	飯島 寿
飯塚 文男	生駒 一郎	生瀬 隆夫	池田 淳
池田 泉	池田 久夫	池田 穰	池原 正
池原 正治	石井 正一	石井 勉	石井 俊三
石井 清丸	石井隆一郎	石下 力也	石川 卓二
石川 豊	石倉 行晴	石崎誠一郎	石田 一郎
石田 孝一	石田 信義	石橋金一郎	石原 清志
石原 毅	石山 弘吉	出雲 功	板尾 一郎
市川 保	市川 尚志	市瀬 勲	市田 洋

泉辰男	稲田倍穂	稲松敏夫	猪股俊司	酒井栄	作美象三	迫田貞男	笹本誠之
今岡正	今滝淳	今西寿雄	岩井喜八郎	里吉忠典	沢原正則	鮫島健一	士堅秀
岩垣雄一	岩上政雄	岩田一夫	岩田忠兵衛	四宮正太郎	重安義美	清水保	清水販七
岩橋武彦	岩橋亘	上田明	上野達人	清水正夫	清水正夫	塩川勇	塩見武弘
植木貞衛	植松由太郎	氏井栄一	牛奥義男	繁井功一	品川栄	篠崎遣	篠原登美雄
内田一郎	内山康平	打林宏	梅村魁	篠原幹	柴田加喜智	柴田慎一	柴田平
江口二郎	江刺十郎	榎本茂助	遠藤作次	柴田正	柴田治夫	渋谷和夫	渋谷克己
遠藤正一	遠藤正男	小川真	小川豊一	島田豊喜	嶋谷卓郎	下山次郎	寿楽康雄
小川元	小川昌	小川善也	小川義平	白石俊多	白石直文	神野資郎	神修三
小倉昌三	小座間泰蔵	小野津勝則	小幡寛二	神保正義	諏訪貞雄	諏訪利夫	末沢不二雄
小幡好金	尾崎晃	尾崎雅篤	尾崎寿	杉知也	杉浦進	杉野信吾	杉谷晃
緒方司	緒方増男	大池晟也	大石正一	鈴木啓司	鈴木溪二	鈴木重平	鈴木清造
大石元明	大柿諒	大久保憲太郎	大久保正道	鈴木俊男	鈴木英雄	鈴木博仁	鈴木胞吉
大島了二	大園貞則	大田孝博	大地羊三	鈴木隆吉	砂谷知之	住岡明一	世良直男
大塚全一	大塚本夫	大西寛一	大野一郎	清野保	関慎吾	田上磨	芹沢田口
大野幸男	大橋全	大浜邦平	大浜文彦	曾我正助	園田頼孝	田中忠臣	田中弘義
大宮克己	大村翠	大山富次郎	太田章	田中岩男	田中昇之介	田中実	田辺一男
王方一	岡正義	岡崎永則	岡崎勝	田中正己	田中理夫	田中多田	多谷虎男
岡沢裕	岡田章二朗	岡田篤也	岡田秀穂	田辺義亮	田伏広次	高木鶴次	高野稔
岡田政三	岡部達郎	岡部保	岡本孝平	太斎宗一	高井憲一郎	高橋脩一	高橋光雄
岡本俊雅	沖田二郎	奥田充幸	奥村吉朗	高橋敦夫	高橋克男	高橋利一	高橋靖
折田圭吾	加藤静雄	加藤道生	加藤実	高橋淳二	高橋清吉	高宮茂人	高村良夫
海原正二	徳谷義明	鹿島邦夫	垣谷正道	高橋豊	高畑正治	竹内益雄	武井稔
格井保治	櫻山健一	春日屋伸昌	梶谷正孝	高柳忠夫	滝沢克己	竹田真一	立花文勝
風巻友治	片山忠夫	片岡利男	勝田悦之	竹下文武	竹田吉次郎	立石一男	谷口邦夫
勝本晋一郎	門松政男	門脇慶太郎	金子喜太郎	武田哲美	武田要吉	谷秀夫	垂水正行
金沢良	狩郷修	上館良親	鎌本雅夫	辰己寿男	谷重幸	玉村栄二	津田寛
神先藤五郎	神田精夫	狩保恒一	川勝四郎	谷元正敏	玉田茂芳	千葉直之	津田一郎
川岸国晏	川崎煥	川崎健次	川崎精一	樽井常忠	千葉慶事	土屋昭	堂垣内尚弘
川島吉男	河上武	河野一夫	河野正一	筑瀬懋	月本達弥	土屋昭	土居正典
河原克平	河原井正夫	河村安之助	河本勇	津嘉太郎	津田誠	藤堂好文	東間哲男
菅貞和	菅野一	木村隆雄	木村恵雄	詰光弘次	戸田五郎	藤堂勝二	富沢恒男
喜内敏	菊岡武男	菊池貞雄	菊川哲士	飛田耕	寺尾正久	寺島晟	富所強哉
菊田宏	岸上重一	岸田收二	岸本進	土橋節夫	戸田晴夫	當銀清一	鳥居隆
岸本智	北川英夫	北郷繁	北沢潤一	嶮野二男	徳田秀雄	富田善明	中川貞雄
北村滋康	北山昇	君島博次	清郷博人	富田健男	富田正	富田権二	中杉博
京牟礼和夫	金野仁	工藤忠夫	釘宮健二	友原賢介	豊田実	豊永権二	中谷強
草川正	葛生新一	隈部毅一郎	熊谷喜次郎	鳥海勲	中井菊造	中川圭三	永田二生
倉田宗章	倉智敏之	倉富保	黒崎達二	中川英憲	中川三夫	中島捨己	長尾義三
桑野定美	桑原宗三	小司英一	小出梅雄	中瀬弘	中妻龍馬	中野有	並木喜光
小池健一	小池晋	小寺健右	小西武雄	中村弘	中村稔	中村泰雄	南条重太郎
小西利明	小沼春幸	小林五六	小林忠雄	中山敏雄	永井善雄	永瀬隆三	西村和夫
小林利春	小林長雄	小松雅彦	小松公一	永田安彦	永山岸夫	長尾満	根橋明
小山和雄	小山信章	小路田秀康	古賀人平	長畑堅志	長浜謙吾	長山泰介	野中正樹
古賀哲	古賀矩雄	古賀雷四郎	児玉見	植村秀雄	南雲俊信	南雲義男	長谷川謙也
児玉嘉寛	後藤績	後藤長四郎	後藤尚男	南部三郎	南部隆一	二ノ上哲雄	萩原繁
河野孝之	河野通之	郡道夫	駒井勲	西敏賢	西野常広	西野満男	畑薫
近藤和夫	近藤喜喜	近藤平三郎	権平由直	西村精一	西村俊夫	沼田充弘	島山正文
佐川孝記	佐久間健次	佐久間照正	佐々木茂雄	根本唯夫	野上清忠	野口豊	塩原文弥
佐々木武基	佐々木敏雄	佐々木良平	佐渡博夫	野間口親弘	野村重一	能登常一	濱野春雄
佐藤和雄	佐藤茂	佐藤泰二	佐藤武男	長谷川恒夫	長谷川泰之助	長谷部亮二	萩原繁
佐藤忠五郎	佐藤開哉	佐藤弥平治	斎藤鼎	萩原精三	橋本經吉	橋本嘉夫	畑薫
斎藤外吉	斎藤徹	坂田隆雄	斎藤正彦	畑中元弘	畑野正	島山直隆	島山正文
斎藤迪孝	斎藤義治	坂口伊佐雄	坂口義明	服部主計	服部博太郎	花輪次郎	塩原文弥
坂田中	坂梨宏	坂野重信	坂本義雄	浜田正	浜田徳一	浜田俊郎	濱野春雄

早川 力	林 勇	林 泰造	林 敏明	渡辺 政男	渡辺 豊	渡辺 隆二			
原田 彦丸	針生 幸治	半田 章	日置 克幸	1 200 円					
日野 友三	日比 正光	日比野志朗	日吉 三友	塚本 昭吾					
水見野道弘	樋口 芳朗	脇黒 和彦	平尾 重信	1 000 円 (計 1 150 名)					
平川 朋之	平川 保一	平田 昌三	平田 寛	安芸 周一	安部 智雄	安藤 栄	足立 洪		
平竹 常二	平山 章	広門 正康	広住 富夫	阿部 和雄	阿部 武雄	相原 信夫	相原 正夫		
広瀬 耕平	布施敏一郎	深水 正保	福井 滋	青木 治郎	青木 正一	青木 悳	青木 弘		
福井 武弘	福島 勝美	福島 正人	福田 克彦	青木 康夫	青木 義人	青田 吉直	青山 朝雄		
福田 繁雄	福田 英雄	福田 吉明	福原 辰三	青山 博之	赤井 浩一	赤垣 哲也	赤司 六哉		
福山真三郎	福山 俊郎	藤井 弥	藤岡 吉治	赤津 武男	赤塚 雄三	赤堀 一二	明石 重雄		
藤田 耕二	藤田 徹	藤田 房雄	藤田 政市	秋元 保	上森 千秋	浅田 宏	浅沼 堯		
藤野与利夫	藤林 秀雄	藤原 孝	藤原 隆郎	浅野 則栄	朝日山和且	天野 光三	天宅 義和		
藤本 正八	藤芳 義男	淵野 正雄	船木 輝海	雨谷 正方	網干 寿夫	荒井 勇司	荒川 哲治		
古川 義明	古橋 利男	別所多喜次	逸見 正則	荒木 憲治	荒木 民哉	荒木 正夫	有沢潤次郎		
逸見 昌則	星野 貞二	星野 哲三	星野 晴彦	有 正一	井上 巖	井上 順平	井上 二郎		
細井 正延	細谷 由雄	堀 録郎	堀米 時夫	井上 保	井上 三男	井上 肇	井上三代重		
堀松 和夫	本田 富雄	本多 勇	本間 時夫	井上 幸衛	井浦 敏彦	井垣 正純	井口 清		
間瀬 敬巳	真野 茂夫	前川 恵立	前川 行男	井口 弘	井田 憲治	井前 勝人	井本 敏彦		
前沢 肥	牧 勇	牧野 末広	牧野 浩	五百蔵 条	五十嵐 章	五十嵐弘一	五十部敏夫		
牧野 文雄	卷下乙四郎	政田 嘉明	升川 剛男	伊集院兼成	伊藤 悦郎	伊藤 謙一	伊藤 孝治		
益満 清秀	増田 三次	増山 辰夫	松井 力	伊藤 昌三	伊藤 哲夫	伊藤 文人	伊藤 幸郎		
松居 正次	松尾 寿一	松尾 義人	松岡 善幸	伊藤 義博	居谷 献吉	飯尾准一郎	飯島 平		
松崎 俊一	松沢 芳登	松田 俊彦	松野 重雄	飯島 文雄	飯田 茂次	飯田 修三	飯田 正雄		
松原健太郎	松村 嘉雄	松本 有	松本 正雄	飯塚 通夫	池田 進	池田 徳星	池田 肇		
松本 鍊三	丸井 信雄	丸地 角衛	丸山 二郎	池守 昌幸	石井 清	石井 保次	石井 淑郎		
三浦 晃	三浦 一郎	三浦 一郎	三浦 侃	石井 義与	石賀 郁麿	石黒 健	石黒 昌市		
三上 澄	三木五三郎	三瀬 貞	三橋 定広	石坂 慶治	石田 兼義	石田 洋三	石谷 邦次		
三村 誠三	三宅 憲吉	三宅 政光	水島 八郎	石津 重政	石塚 勲	石橋 毅	石橋 実		
水谷 五彦	水野福太郎	水野 正信	水原 徳道	石原 安雄	石丸 善三	石見 聖吉	石水 武義		
耳野 慎	宮内 敬保	宮内 宏	宮木 文弥	石丸 勝馬	石山 和雄	石山 達郎	磯部 憲		
宮崎 政三	宮沢 清	宮地長次郎	宮地 正人	一条 吉雄	一柳 健	市川 哲也	市原 誠夫		
都 淳一	宮崎 茂一	村上 三郎	村上 新	市原 慎也	糸賀 郁雄	稲垣 克郎	稲垣 吉夫		
村上 末美	村上 博智	村田 淳	村田 定雄	福田 藤次	稲見健一郎	大塚 光治	猪又 稔		
村瀬 清	村山 論	村山 保	室屋 清次	今井 孝	今井 肇	今井 幸雄	今村 一良		
持田 三郎	望月 邦夫	望月 良一	本屋 久男	今村健二郎	入江 章演	岩佐 義朗	岩田 晃治		
本吉 薫	森 岩治	森 修一	森 隆	岩橋 洋一	岩間 滋	岩松 正憲	岩村 武		
森川 徳長	森下 兼治	森本 光男	森山 一英	岩本 省吾	岩本 政光	宇多村光基	鶴飼 浩一		
森吉 満助	諸岡 辰雄	諸橋 運治	八乙女盛男	上岡 馨	上田 滋美	上田年比古	上野柴次郎		
八木 亀助	八木 鉄男	八坂 達雄	八尋 良直	上野 清孝	上野 晃司	上野 実昭	上野 茂		
矢田 満夫	矢野 謙	谷田沢正治	安岡 保吉	上野 博	上原 基也	上東 公民	上山 惟康		
安河内麻雄	安田 慎一	安田 武二	安田 正	植田 泰	氏家 裕	氏平 長門	白井 昭二		
安浪 金蔵	柳田直三郎	藪 一彦	山内邦比古	内田 和男	内田 勝士	内田 源蔵	内田 孝吉		
山内 豊聡	山之内繁夫	山県 保	山口 総一	内田 聡吉	内山 元男	内山 義郎	梅野 峰定		
山口 直弥	山口 柏樹	山口 政知	山崎 貞義	梅宮 康彦	江川 太朗	江川 長人	江口 英治		
山崎 徳也	山里 尚英	山下 一夫	山下 茂夫	江口淳一郎	江口 久明	江藤 俊男	江本 昭		
山下 嘉治	山田 有一	山田 岩保	山田 好一	江本嘉四郎	江守 保平	蝦名 晃郎	榎並 昭		
山田 典己	山田 博	山田 政喜	山中麟之介	榎本 貞治	榎本 有三	遠藤 正明	遠藤 正己		
山根 幸夫	山根 良蔵	山橋 武	山本 安一	小笠原正夫	小笠原 実	小川 充郎	小川 泰男		
結城 正雄	余湖 一郎	依田 博美	横瀬 敏	小田 豊	小田 弘	小滝 秀治	小野 朝男		
横田 四郎	横谷 博行	芳内 俊夫	芳岡 二朗	小野 淳雄	小野 司	小野 久彦	小野寺駿一		
吉岡 巖	吉海 正	吉川 五生	吉川 貞治	小野寺章介	小原 洋	尾崎 敬三	尾崎 義男		
吉田 茂	吉田 保	吉田 良三	吉塚 善輝	尾関 基	尾山 一郎	緒方 留義	及川 宦		
吉永 治大	吉原 重久	吉村 貞次	吉元 実	及川 陽	大石 建一	大内 泰	大浦 武		
若林 正	涌井 義貞	脇 治雄	渡辺 一英	大江 昭治	大神 芳馬	大河戸宗昭	大河原耐介		
渡辺康次良	渡辺 史郎	渡辺 繁	渡辺 忠雄	大久保喜市	大久保豊和	大久保紀生	大久保暢夫		

大串 甫	大熊 辰夫	大越 洋	大沢 俊夫	後藤 隆	後藤 恒次	後藤 肇	後藤 正美
大島 達治	大隅 朗弘	大谷 哲雄	大谷 弘	河本 洗一	上月 助博	神月 隆一	輿水 千尋
大塚 照久	大規 栄二	大友 栄治	大西 清治	是枝 忍	近藤 英雄	近藤 正則	紺野 行夷
大西 智隆	大根田 寛	大野 定利	大野 大明	佐伯 礼行	佐川 潤逸	佐々木幹吾	佐々木 忍
大野 善雄	大庭 宗俱	大場 正仁	大橋 一隆	佐々木誠一郎	佐佐木 綱	佐々木 徳	佐々木道夫
大橋 完	大畑 正彦	大浜 昭次	大原 資生	佐武 正雄	佐藤 東	佐藤 一成	佐藤 一彦
大樋 邦夫	大平 彰	大平 武男	大平 至徳	佐藤久三郎	佐藤 五郎	佐藤 晃一	佐藤 昭二
大堀 俊典	大間 春彦	大宮 忠雄	大山 和雄	佐藤 任司	佐藤 太郎	佐藤 武夫	佐藤 範光
大山 昌亮	太田 好弘	岡 晃	岡 一男	佐藤 尚徳	佐藤 博三	佐藤満洲雄	佐藤 昌
岡 克己	岡 俊英	岡 久夫	岡上 忠夫	佐藤 操	佐藤 通夫	佐藤 光春	佐藤弥太郎
岡沢 稔	岡田 重豊	岡田竹三郎	岡田 礼雄	佐藤 康夫	佐藤 吉彦	佐原 文一	座親 勝喜
岡田 泰明	岡田 六一	岡野 兼夫	岡村 晋	斎藤 朝治	斎藤 岩雄	斎田 英二	斎藤 金吾
岡村 隆夫	岡本 貞雄	岡本 孝	岡本 文夫	斎藤 昇	斎藤 正辰	坂井 秀弘	坂井 豊
岡本 弘	岡本 稔	沖津恒三郎	沖村賢次郎	坂野 行雄	坂本 薫	坂本 了	坂本 正
荻野 登	荻原 能男	奥村 威俊	桶谷 明憲	坂本 雅男	阪口 理	阪牧 靖吹	酒井 昭
長田 新平	落合 正美	親谷 貞己	可見 正俊	酒井 浩	榊山今日児	桜井 彰雄	桜井 信雄
加賀美 彰	加賀美真人	加藤 晃	加藤 修	桜井 正美	桜井 与平	里見平司郎	真田 輝見
加藤 重一	加藤 隆丸	加藤 正	加藤 勻	沢田 敏男	沢田 信夫	鮫島 泰佑	志田 弘一
加藤 泰之	加藤 裕	甲斐 栄一	鹿島 健次	清水 影明	清水 昭邦	清水 昭二	清水 利昭
鹿嶋 松男	鹿野秀一郎	柿 菊市	笠井 春男	清水 信義	椎名 泰	椎野 佑昌	篠崎 章
笠井 芳夫	糟谷 憲司	柏村 昭生	柏村 正和	篠塚 正宣	柴田 徹	柴田 洋	柴森計一郎
梶垣 心一	梶谷 作蔵	梶ヶ谷利夫	梶原 光久	渋谷 篤美	渋谷平八郎	島田 正憲	島村 鉄司
粕川 金司	片岡 智	片山 信雄	片山 祐一	嶋 喜代治	嶋崎 博章	嶋田早多夫	下石坂克典
門脇 昭二	金井 将	金子 進	金子 保	下永田 実	下平 典夫	主浜 実	白井 正
金子 勉	金丸 昭治	金山 隆	金山 良治	白石 幸蔵	白倉 省吾	白崎 寛治	白水 清志
兼本 宏	銀山 匡助	鑷木 宏	釜薙 宏	白山 憲	新保 鉄夫	進藤 忠夫	神野勝之助
仮井 尚雄	上坂 和男	鎌田 文明	神山 光男	須山 一郎	洲崎祥一郎	末石富太郎	末原 忠司
亀井 俊之	亀田 真一	唐沢 昭	川合 尚	菅 謙一	菅原 照雄	菅原 輝夫	菅原 操
川井 規	川上 真夫	川喜田 効	川岸 洪弥	菅谷 昭	菅谷 義信	杉原 敏彦	杉山 孝雄
川北 米良	川崎 寛司	川崎 五郎	川島 普	鈴木 昭雄	鈴木 巖	鈴木 薫	鈴木 馨
川島 長徳	川名 信	川端 哲美	川淵 桂	鈴木 清司	鈴木 邦彦	鈴木 茂	鈴木 正一
川松 忠	川村 倭郎	川村 光雄	川本 眺万	鈴木 善三	鈴木 常博	鈴木 敏夫	鈴木 八郎
河井 敏	河井 祐次	河合 忠雄	河合 友純	鈴木 正和	鈴木 稔	鈴木 行雄	鈴木 雄大
河野 彰	河野 茂	河野 正晴	河原 友純	鈴木 庸二	鈴木 義一	薄 慶治	瀬尾 貞甚
河原田礼次郎	河村 寛司	河村 博	木内 政鋭	瀬古 隆三	清家刀称夫	清家 保成	清野 茂次
木下 昭二	木下 正彦	木田五一郎	木畑 稔裕	関 厚	関 利雄	関沢 昭房	関野 孝治
木村喜代治	木村 資作	木村 俊晃	木綿 吉彦	千秋 信一	十亀 利雄	曾根 義治	相馬 和夫
吉柳 徹也	城戸 敏也	菊池 言成	菊池 謙三	相馬 康男	副島 健	園田 忠	染矢 聡
菊地 敷	菊地 洋男	岸 力	岸田 隆	田浦 秀春	田神 一	田川 稔	田口 和治
岸田 勇三	競 清男	北川 雅敏	北沢 四郎	田窪 久夫	田島 初男	田尻 修	田地野直哉
北村 幸治	北村 七良	北村 正也	北村律太郎	田中 敬一	田中 茂美	田中 昭二	田中 延男
君島 重夫	清山 信二	金原 弘	工藤 尚男	田中 登	田中 秀人	田中 守男	田畑 和信
久野 悟郎	久保 七郎	久保田昭寿	久保寺勝蔵	田辺 幸男	田辺 末信	田畑 和男	村田 昭記
久米 国幹	日下 輝雄	日下 治樹	楠 宗道	田村 浩一	田村重四郎	田村徳一郎	多賀 頼光
楠目 隆茂	国広 哲男	熊谷 俊吉	熊沢 伝三	多田 邦雄	多田 尚夫	大長 昭雄	大楽 悦治
栗城 孝雄	栗原 和夫	栗原 幸一	黒川 薫	泰道 正年	高岡 司郎	高木善三郎	高木 孝夫
黒川 貞男	黒川 紀	黒羽 仁	桑原 邦彦	高木 宏	高木 博	高木 宗俊	高瀬 信忠
桑野佐四郎	桑野 進行	解良 知己	小池 修二	高田 次男	高田 弘	高野内滋樹	高橋 昭
小池 清志	小池 貞二	小池 精一	小石川譲治	高橋 太助	高橋 壮治	高橋 琢己	高橋 利夫
小島 力	小玉 克己	小玉 誠	小坪 清真	高橋 英雄	高橋 幸男	高橋与三郎	高比良敬一
小浜幸之助	小浜 久	小林 一輔	小林 周三	高間佐太男	高村 由栄	鷹部屋亮平	滝野 正次
小林 正八	小村 善重	小村 信寛	小林 博憲	竹内 章	竹内 泰雄	竹川 静	竹川 正臣
小林 実	小林 芳郎	小松 清	小南 勇	竹原 清隆	武井 外一	武川恵之助	武田 昭彦
小宮 益三	小森 久信	小柳 弥	古賀 昭二	武田 寛	武田 穰	武部 健一	立山 泰士
古賀 太郎	児嶋 弘行	後藤 巖	後藤 茂夫	橋 均	辰野 長治	建部 恒彦	谷 嘉夫

谷浦 英男	谷口 秀男	谷本 喜一	玉井 清一	桧垣 春郎	桧垣 正也	東 三郎	東 義雄
玉木 稔	玉宮 朗	丹保 武	千秋 賀弘	東 良孝	久武 啓祐	百石 勝	平尾 通弘
千田 稔	千葉 実	近森 藤夫	中条 博之	平岡 輝夫	平川 延一	平野 巖	広井 生馬
津垣 昭夫	津田 悟	津田 満男	津原 辰吉	広川 章	広川 榆吉	広沢 時雄	広瀬 菊臣
塚木 正文	塚山 隆一	辻 諄	辻 石光	広瀬 盛行	広田 孝夫	広田 功	不破 昭
辻 弥	堤 一高	堤 一	土田 欣平	深井 俊英	福島 義男	福田喜三郎	福田 隆
土田 秀郎	土屋 直樹	土屋 貢	土屋 義人	福田 竜三	福田宇三郎	福富善次郎	福成 和幸
恒次 久和	坪内栄一郎	手島 春樹	寺尾 昭	福野 裕章	福原元次郎	伏見 知道	藤井 郁夫
寺尾 英二	寺島 修	寺見 隆	寺田 隆志	藤岡 俊男	藤井 敏夫	藤田 久	藤岡 孝夫
土居 温郎	土岐 高史	戸倉 隆	戸田 隆志	藤岡 俊彦	藤田 周蔵	藤田 雅弘	藤岡 嘉夫
外崎 忍	東井 明平	東条 泰男	逸山 啓	藤原 俊彦	藤卷 勇	藤本 和夫	藤本 広
遠山那須男	柵 智雄	徳竹 功明	徳永 一規	舟戸 一勝	船越 稔	船橋 秀親	別所 功一
徳永不二男	徳永 博明	徳方冠二郎	徳光 善治	別府 道治	辺見 昌行	保坂 誠治	穂積 豊
徳光 秀雄	時友 健	富家 友直	富樫 利男	細田 三朗	細谷 浩正	堀 啓	堀 和夫
富沢勇喜智	富田川正安	富永 正俊	富張清一郎	堀 高夫	堀 壮行	堀内 敏行	堀川 光治
豊浦 勲	豊島 悟	豊嶋 厚次	鳥居 一守	堀家 昭二	堀田 貢	堀場 正一	本間 栄一
鳥越 信一	土岐 崇	那須 勉	奈良部俊雄	馬淵 勇	堀田 純郎	前田 郁二	前田 弘
内藤 三郎	内藤 正一	内藤 幸徳	直井 正之	前田 進	前田 依彦	前多与喜雄	前出 繁吉
中井 均	中川 季吉	中川 洽治	中川 義徳	前田 泰敬	牧野 一成	正生 克樹	正木 昭
中沢 学而	中沢 重夫	中沢 康	中島 重旗	牧野 滋	政野 光男	増岡 康治	増田 利克
中島 洋吉	中蘭 清治	中田 啓一	中田 良孝	正木 文男	増谷 和彦	松井 克好	松井 宏一
中谷 健	中谷 忠男	中津 允秀	中根 博	松井 実	松尾 滋	松尾 喜生	松岡 貞蔵
中野 昭彦	中野 忠頼	中村 与市	中原 宏	松岡 亮一	松下 勇	松田 興人	松田 茂
中村 堅	中村 重久	中村 信吉	中村 清二	松岡 秀夫	松田 正久	松梨順三郎	松並 仁賢
中村 卓次	中村 隆俊	中村 唯郎	中村 忠春	松田 秀夫	松原 幹男	松本 澄	松本 昭三
中村 直衛	中村 宏	中村 正則	中村 充	松野 倬也	松本 進	松本 長司	松本 昌昭
中目 保	中山 芳雄	仲野 昭治	仲野 良紀	松本 進	松本 弥太郎	町田 裕	丸山 三夫
永井 計	永井 豊彦	永岡 武徳	永倉 正	松本 弥太郎	三石 嘉朗	三浦 昭男	三瀬 純
永瀬 肇	永野 明夫	長井 健	長尾 昭治	三石 嘉朗	三隅 隆東	三田村道雄	三野 茂夫
長木 克信	長田 正雄	長田 仁郎	長友 成樹	三隅 隆東	三原 兎	三村 篤敬	見置 征
長縄 高雄	長野 秋雄	梨本 泰敏	夏目正太郎	三原 兎	見沢 繁光	水上 弘	水島 増男
浪岡 顕信	波岡 昭市	成木 久夫	成田 饑	見沢 繁光	水田 昭宗	水野 泰	水野与師増
成田 一尋	成田 進	成川 清雄	南部 祥一	水田 昭宗	道村 保	光江 巍堂	道見 宏
二木 賢治	仁木 理夫	二宮 祥修	仁瓶 義夫	道村 保	箕口 政男	峯村 芳郎	宮井 博
新原 芳幸	濁川 義治	西井 望雄	西川 晃	箕口 政男	宮沢 寛	宮沢造酒蔵	宮田弘之介
西田 栄	西田 繁一	西田十三夫	西田 孜	宮沢 寛	宮代 和夫	宮間 貞男	宮本 義雄
西部 亮	西村 弘一	西村 積	西村 剛	宮代 和夫	牟田 礼孝	武藤 章	向井 軍治
西谷 哲三	西脇 威夫	錦織 達郎	沼田 昌志	牟田 礼孝	宗岡 真治	宗村 保	村井 利次
野口 栄生	野崎 昇	野田 文彦	野田 誠	宗岡 真治	村上 実	村田 二郎	村手 国彦
野津 幹男	野中 信之	野々山 明	野原 善二	村上 実	毛利 正光	本山 茂男	元木 暉里
野村 淳二	羽木 朗	芳賀 幸雄	長谷 明	毛利 正光	百島 祐信	森 順	森川 茂
長谷 直樹	長谷川 清	長谷川啓明	長谷川幸雄	百島 祐信	森口 拓	森下 祐一	森田 一彦
長谷川昭一	長谷川要作	波多野 宏	馬場幸一郎	森口 拓	森谷 博	森永 一	森本 勇
馬場 勇輔	灰谷 隅夫	萩原 惟昭	萩原 春男	森谷 博	森山 享治	森山 茂	門馬 将義
白善 武一	橋元 助哲	橋本 固	橋本 捷喜	森山 享治	八木 寿	矢崎 晋	矢野 文雄
橋本 武	橋本 輝夫	橋本 芳之	泰 宏寿	八木 寿	矢作 文弥	箭内 寛治	安 健比古
嶋 昭治郎	服部 秀雄	花倉 敏秋	埜 克郎	矢作 文弥	安井 悟	安川 孝一	安田 正幸
浜 建介	浜本 二郎	早川 保	速水 経明	安井 悟	保田 一郎	柳川 浩二	柳沢 一夫
林 栄港	林 公重	林 憲吉	林 功治	保田 一郎	柳沢 幸利	山形 保男	山川 源亮
林 聡	林 茂	林 茂樹	林 新式	柳沢 幸利	山形 仁	山川 幸二	山川 修一
林 博司	林 正夫	林 正道	原 良平	山形 仁	播磨政太郎	山崎 甚一	山崎 澄男
原口 好郎	原嶋 尚喜	原田 信昭	播磨政太郎	山崎 信之	番 二郎	山崎 徹	山崎 広宣
春田 精二	半沢俊一郎	坂東 孜朗	番 二郎	山下 章	比企野昭一	山城 宗朝	山田 明男
日置 宏一	日野 幹雄	日比 敏雄	比企野昭一	山下 章	樋口 保夫	山田 隆文	山田 秀雄
水田 正男	肥後 満郎	樋口 陸夫	樋口 保夫	山田 隆文			山田万寿男

山田 正和	山田 善一	山根 達郎	山根 孟	稲永 浩一	稲本 峯	稲吉 正敬	犬飼 克己
山根 正弘	山村 勤	山本 幾治	山本 新一	犬束 洋志	猪野 完	猪俣 通	今枝 明
山本順一郎	山本 剛夫	山本 強	山本 俊也	今田 徹	今村 浩三	岩井 国臣	岩井 義孝
山本 俊之	山本 宏	山本 稔	山本 保晴	岩城 良	岩崎 輝雄	岩田 文壮	岩田 光生
湯浅 寿輝	用害澄之助	横井 重晴	横尾 勇	岩田 泰之	岩附 宏行	岩根 勇夫	岩花 正知
横村四郎吉	横森 賢	横山 顕二	吉岡 国彦	岩間 昭雄	岩谷 英雄	印藤五十六	宇崎崎貞雄
吉岡 孝信	吉岡 楨雄	吉倉 忍	吉田 修造	宇都宮 治	宇山 英晶	笛吹 律夫	鶴飼 孝雄
吉田正次郎	吉田 進一	吉田 武季	吉田 恒生	上田亨三郎	上田 浩太	上野 進	上野 泰資
吉田 豊穂	吉野 龍男	吉原 茂雄	吉原 拓二	上田 哲夫	上西 一	上野 秋朗	上野 寅太
吉村 成男	吉野 虎蔵	吉村 正武	吉村 祐治	上村 正人	上村 幹雄	植月 躋	魚地 昌一
米沢 武士	米沢 博	米山 恵夫	從野 武邦	牛尾 正之	牛島 達	後迫 政道	白井 忠雄
和田 尚志	和田 祐之	和田 輝義	和田 学	歌田 直之	内川 清	内田 二郎	内田 泰三
和田 道男	若木 三夫	若桑 訥	若月 宏之	内村 嘉孝	内山 修三	梅窪 茂	梅沢 一之
渡部 巖	渡部 幸治	渡辺 明	渡辺 兼利	梅田 勝彦	浦 芳治	浦野 哲也	江口 元男
渡辺 研一	渡辺 計邦	渡辺 修自	渡辺 重幸	江森 幹雄	越後 寛	遠藤 治郎	遠藤 高明
渡辺 孝昭	渡辺 昇	渡辺 正敏	渡辺 益三	小形 金成	小川 隆	小川 松雄	小川 裕一
渡辺 祐作	渡辺 嘉男			小川 津嶋	小栗 進	小沢 勝正	小野 晰爾
950 円				小野里節司	小野寺昭夫	小野寺 啓	小柳津栄治
小浜修一郎				尾崎 茂樹	雄倉 幸昭	緒方 一夫	緒方 睦治
800 円				緒方 嘉彦	緒方 義幸	大久保良司	大國 喬
佐竹 義男				大沢 毅一	大島 修	大島 一男	大曾根利彦
700 円				大谷 久長	大塚禎一郎	大塚 容正	大槻 忠良
山口 武雄				大場 重美	大橋 充	大橋 豊	大林 重彦
600 円 (計 2名)				大林 隆	大林 治夫	大森 恒彦	大矢 勇
坂井 潤 宮下 員於				大矢 一夫	大田 隆	太田 忠士	太田 輝則
506 円				岡田徳太郎	岡田 弘	岡田 弘之	岡田 吉之
大底 隆一				岡野 軍治	岡野 博治	岡部 信義	岡部 秀夫
500 円 (計 1193名)				岡村 忠雄	岡村 敏彦	岡本 克洋	岡本 利彦
安達弥太郎	安藤喜平治	安藤 郁夫	安藤 惇	岡本 尚	岡本 芳美	沖藤 明	沖本陽太郎
安藤 誠二	安藤 隆	安藤 雅成	足立格一郎	荻野友三郎	荻野 秀雄	荻原 孝昭	奥田 岩夫
足立 公平	足立 隼夫	阿部 邦義	阿部 茂男	奥田 忠司	奥田 徹	奥田 光男	奥野 隆夫
阿部昭十郎	阿部 弘一	阿部 博	阿部 龍介	奥村健次郎	奥村 洋	長田 雅弘	長内 戦治
相原 功	会田 義彦	青木 清	青木 敏雄	押野谷直樹	落合 正治	鬼丸 幹治	表 友宏
青木 信光	青島 宗博	青柳 澄雄	赤木 俊允	加藤 功	加藤 勝行	加藤 克弘	加藤 邦芳
赤松 惟央	明石 喬二	果 海龍	秋山 輝正	加藤剛四郎	加藤 才治	加藤 太重	加藤 隆夫
秋山 昌之	浅野 武明	朝野 一邦	朝日 義勝	加藤 正之	加藤 禎三	加藤 徹郎	加藤 輝雄
東 忠節	畔柳 正男	穴田 昌	天野 愼	加藤 正好	鹿島 近	柿崎 博雄	柿田 一郎
網野 富弘	新井 斎	荒尾 紀	荒川 常昭	柿沼 孝育	蔭山 達夫	籠田 敷	笠井 憲次
荒沢 文夫	荒牧 英城	荒山 俊夫	有坂 信司	笠原 正	笠原 清	笠松 忠夫	笠谷 真八
有馬 禎男	有松 東海	粟生喜三男	井上 敦	嵩下 敏秋	柏原 弘	片岡 功	片瀬 忠夫
井上 定昭	井上準一郎	井上 隆司	井上 哲朗	片山 一	片山 正朔	門脇太賀志	角谷 効一
井上 正康	井上 嘉信	井垣 力	井口 勝秀	金子 哲也	金子 宗重	金沢 善頭	金田 吉弘
井崎 正三	井関 栄	井手 正男	井沼 忠彦	金丸 芳丈	兼田 郁	兼田 健次	釜蒔 昭一
伊沢 照夫	伊集院道成	伊藤 圭典	伊藤幸三郎	上条 実	上出 忠雄	上地 七郎	鎌田 弘
伊藤 保	伊藤 良行	伊与田直行	飯田 一雄	神井 正英	神谷 将弘	神山 洋	唐沢 成朋
飯田 一根	飯田 繁	飯塚 稔	飯沼 俊二	川口 宗	川口 森人	川窪東海彦	川崎 忠雄
飯野 怜之	飯村 博之	家田 良一	池 隆史	川崎 芳一	川島 進	川島 智孝	川瀬 統一
池田 尚治	池田 宏	池田 貢	池田 安博	川田 忠樹	川野 繁治	川原啓三郎	川原 信昭
勇 直允	石井忠二郎	石井哲太郎	石川 金治	川原 道温	川村 起也	川村 邦彦	川村 雅幸
石川 二郎	石川 卓見	石川 徹	石川 正夫	河上 泰蔵	河角 誠	河島 治郎	河野 恒人
石川 幸彦	石河 忠雄	石崎 昭義	石崎 勝義	河原 惟臣	河原 進	河村 守久	河本 禎二
石田 慎一	石田 稔	石田悠喜雄	石田 陸	菅 七郎	木内 勇	木戸 薫	木原 芳彦
石橋 千之	石橋 譲	石浜 博司	石原 義通	木林 積彦	木村 薫	木村 輝夫	木村 博光
石山 修	磯部 節彦	坂井 正美	板倉 忠興	木村 勝	木本 巖	喜岡直太郎	喜田 章
市川 知	市川 秀和	稲垣 重嘉	稲田 博	喜多 尚	菊田 昌良	岸田 和雄	北奥 知也

北川 久	北沢 文教	北野原博昭	北原 寿磨	箕戸 徳彦	関田 秀昭	関戸 省治	関戸 正允
北原 義浩	北村 清七	橋田 英樹	桐山 徹郎	関本 秀夫	節原 紘一	仙石 泰輔	仙波 久欣
金原 務	工藤 一行	久野 省三	久保田国嗣	曾我 賢治	曾我 武明	曾我 弘志	曾我部隆久
草間 一	国近 康彦	窪田 勝茂	熊谷 紀之	田上 豊	田川 弘義	田口 勝也	田口 公紀
熊田仁四郎	熊野 哲幹	倉田 博	倉貫 静夫	田口 計介	田下 一雄	田島 明男	田島 靖治
倉原 良民	倉持 建三	栗原 幸三	栗原 了	田中 一雄	田中 和郎	田中 誠一	田中 嘉典
栗原 通了	栗原 洋文	栗林 宏	黒川 美宏	田中 達雄	田中 全人	田中 政次	田中 正一
黒木 勇	黒崎 護	黒沢 秀樹	黒沼 秀友	田中 征夫	田中 稔	田中 康男	田中 康雄
来馬 幸雄	桑原 謙	桑原 靖明	桑原 靖明	田中 幸彦	田辺 功	田辺美紀生	田辺 陽一
毛戸 秀幸	剣持 毅	小出 博員	小池 寛	田村 新	田村 肇	多田 宏	多和田幸雄
小石原孝澄	小柴 義昌	小島 旭	小島 宏之	高井 弘明	高尾 孝二	高木 毅	高木 俊兼
小菅 正道	小関 悌助	小谷 雄一	小西 勇	高木 正圭	高桑 稔	高杉 卓伸	高須賀徹彰
小西 守	小林 勉	小林 広光	小林 英夫	高曾根良博	高田 公久	高田 陸朗	高鳥 益治
小林 秀一	小林 賢朗	小林 優	小林 泰章	高野 忠邦	高野 博	高橋 一晃	高橋喜一郎
小林 幸市	小齋 正明	小宮山克治	古島 宏	高橋 健治	高橋 誠一	高橋 健	高橋 武男
五郎丸健治	後藤 侃	後藤 徹	後藤 雅行	高橋 寿隆	高橋 直之	高橋 昇	高橋 一
後藤真三男	後藤 眞	弘田 韶宏	合田 保夫	高橋 秀雄	高橋 将徳	高橋 幸男	高橋 良和
河野 文将	河本 毅一	香西 邦彦	奥水 久	高橋 宏直	高原 正光	高見 之孝	高橋 義彦
菰田 俊男	是松 雅雄	今 千代士	今野 忠	鷹取 健	鷹見 勝美	滝口 洋一	滝沢 洋
今野 正喜	近藤 明男	近藤 一央	近藤倭文雄	滝沢 文雄	竹内 新二	竹内 秀明	竹内 洋
近藤 健雄	近藤 正	近藤 勉	近藤 光明	竹沢 三雄	竹中 敏正	竹畑 良輔	武井 上巳
近藤 道雄	近藤 徹郎	佐伯 幸生	佐久間 昭	武田 勝義	武田 宏	武田 陸男	武富 昌之
佐久間 襄	佐久間光衛	佐々木 清	佐々木 定	立石 俊一	龍田 二郎	谷川 諭	谷川 昭二
佐々木大造	佐々木 孝	佐々木 守	佐々木勇司	谷口 勝彦	谷口 源	谷口 紳義	谷口 雅宥
佐々木義則	佐竹 潔	佐竹 二郎	佐藤 功	谷崎 達夫	玉井 靖也	玉置 享	俵矢 与文
佐藤 治	佐藤 勝三	佐藤 清司	佐藤 清司	丹原 光隆	檀野良太郎	千野 彰	知久 孝
佐藤 健一	佐藤 定平	佐藤 諭	佐藤 雄昭	樽木 武	津田 学	築山 勝彦	辻 栄一
佐藤 毅	佐藤統一郎	佐藤 直昭	佐藤 弘	辻 松一	辻 松雄	堤 奎一	堤 惟明
佐藤本次郎	佐藤 嘉晃	佐野 暁	佐野 旭	堤 泰彦	土田 紀生	土田 昌春	土持 鋭臣
蔡 義雄	斎藤 毅	斎藤 顕次	斎藤 達郎	土本 宜生	土屋 佳男	妻屋 秀	水流 盛智
斎藤富美夫	斎藤 保之	坂井 忠義	坂村 杲	出口 孝一	出口 直美	出口 正治	寺門 寛
坂本 修	坂本 真一	坂本 進	坂本 欣丸	寺沢 章夫	寺田 弘	土井 浩司	土居 威男
酒井 修	酒井 一利	酒井 信一	酒井 英明	土居 元之	土岐 康夫	土性 清稔	戸辺貞次郎
酒向 五男	榊原 功	桜井 章	桜木 昭夫	都丸壯太郎	任田 勉	塔野 泰治	遠山 善久
桜木 正美	笹尾 成文	笹原 四郎	里見 明夫	徳淵 公康	徳山 昭	常田 左門	栃沢 正義
沢 昌平	沢野 寛治	沢村 繁	三瓶 清	徳飛 治男	富岡 隆	富岡 好雄	富樫 敬二
宍戸 克美	清水 和則	清水 佐	清水 次雄	富樫 能章	富沢 高	富嶋 宗雄	富田 明夫
清水 恒次	清水 宏	椎名 公一	塩井 彪	富田宇司雄	富田 幸雄	富田 義次	富高 徹
塩井 幸武	塩田堂太郎	塩田 真弘	篠田 義勝	富永 真生	富安 庸明	友利 長栄	虎谷 俊朗
篠原 洋司	信田 芳明	柴 康夫	柴垣 光信	鳥井 秀敏	名越 義実	那須 浩平	内藤 三郎
渋田 信重	渋谷 剛	渋谷 雅康	島 博保	中道 宏	中岡 章	中舘 秀雄	中川 淳
島 洋幸	島崎 剛	島田 洪三	島田 輝敏	中川 明和	中川 郁夫	中川 英一	中川 徹
嶋谷 欣己	下田 清昭	下田啓太郎	下津 昌司	中川 正臣	中川 淑雄	中川 義章	中越 哲男
下原 三事	首藤 伸夫	正地二三男	庄司 勉	中里 寛	中沢 裕	中島 孝	中田 肇
庄司 生幸	昌子要之助	所河 洋一	上甲 俊和	中田 喜通	中西 正人	中西 吉人	中野 誠一
白岩 隆己	白石 哲也	白石 敏夫	白倉 恒夫	中野 輝明	中楚富士男	中原 久	中村 一司
白藤信次郎	城岡 成匡	新宅 道成	秦 安美	中村 靖治	中村 健	中村 洋海	中村 稔
須沢 輝久	須山 富直	洲浜 繁達	水津 頼久	中村 靖雄	中村 幸雄	中村 龍二	中本 宣夫
末永 治	菅 貞峯	菅谷 光武	杉浦 博之	中谷 三男	中山 紀男	仲 保夫	仲谷 義夫
杉田 敷保	杉田 富彦	杉本 恭一	杉山 哲也	仲村 文明	永井 旭	永井 茂	永井 久夫
杉山 亨	杉木 昭彦	鈴木 勝明	鈴木 公雄	永井 義夫	永島 英実	永瀬 宗一	永田 将員
鈴木 謙治	鈴木 興三	鈴木 茂	鈴木 守	永田 昌知	永田 守	永峰 宗一	永山 敏之
鈴木 素彦	鈴木 康久	鈴木 洋二	鈴木 禧実	長井 士郎	長江 光一	長尾 邦昭	長島 幸於
住居 孝紀	住田 勉	角田 照雄	駿河 敏一	長瀬 博亨	長友 秀実	長友 文昭	長野 敏郎
瀬倉 博	瀬々倉義人	瀬谷 宗彦	瀬戸 隆志	長浜 逸郎	長嶺 義昌	櫛村 郁雄	成井 瑛

成田 康夫	成山 元一	二木 栄材	二宮 克弘	松本 忠国	松本 礼正	丸井 一郎	丸岡 計
仁田原博行	仁平 郁夫	新田 実	西岡 律夫	丸川 和見	丸山 幾男	三井 義記	三池 亮次
西川 貞雄	西川 喬	西田 稔	西野 良生	三浦 功	三浦戴八郎	三浦 操	三田村 武
西畑 勝弘	西原 亮一	西堀 忠信	西牟田 勉	三根洋之介	三平 由春	三宅 邦夫	三宅 進
西村 昂	西村 光生	西山 庄次	布戸 一徳	三宅 秀隆	三宅 英利	三好 寛	三和 久勝
野上 明男	野口東三郎	野阪 正美	野間 康司	美齋津光昭	御友 拓	水倉 征一	水野 暁
野町 和	野村 和正	野村 隆雄	羽室 正彦	水野 勲	水野 金穂	水野 浩一	水野 英夫
長谷川 淳	長谷川 博	長谷川幸雄	長谷部一幸	水野 義允	光野 千里	光吉 一晁	南 旭
裕 龍男	橋井 啓一	橋本 弘之	橋本 良昭	南川 治資	峯尾 正臣	宮内 二郎	宮内 忠
秦 光弘	畑中 俊吉	畑中 裕	島山 哲夫	宮川 修三	宮川 忍	宮川 房夫	宮崎 篤
八田 昭一	服部 一宏	服部 雅章	花園 徹朗	宮崎 浩	宮下 勉	宮田 契	宮永 忠篤
花田 久	花田 通義	花村 昇志	浜砂 順一	宮野 徹志	宮原 春樹	宮本 達朗	宮森 建樹
浜田 勝弘	浜中 勇	浜野 啓造	浜村 惇	宮脇 一郎	宮原 宗広	村井 聡	村尾 剛
早川 嘉一	林 一男	林 利明	林 利弘	村上 郁雄	村上 敏雄	村上 広	村田 元六
林 利喜朗	林 正美	林 三伸	林 芳雄	村田 正也	村田 清二	村田 衛	村田 吉晴
林田 博隆	林腰 順光	原 育郎	原 慧	村松鎮次郎	村本 嘉雄	村山 耕一	村山 卓治
原田 稔	原田 勝之	原田 健司	原田 幸郎	村山 久	村山 昌和	毛利 俊雄	茂木 保孝
播本 章一	半田 耕造	坂東洋太郎	日置五十樞	望月 将也	本山 忠昭	桃井 清至	桃園 健二
日中 一男	日野 長男	比嘉 賀康	比良山次雄	守 国夫	森 朋毅	森 国夫	森 喬
樋川 雅彦	樋口 孟	樋口 通夫	桧山 泰男	森 毅	森 満雄	森 源志	森 泰男
美藤 恭久	東 博司	東出 昇	久野 澄夫	森岡 健一	森川 七生	森島 健	森田 豊
人見 昌地	人見 信之	姫路 昭夫	姫野 邦夫	森長 孝	森平 倫生	森光 晋夫	森本 英治
姫野 照正	平井 一男	平井 慎介	平尾 虎光	森本 修功	森本 隆也	森本 哲臣	森本 春夫
平賀 博	平川淳一郎	平子 林作	平沢 彰彦	森山 謙久	諸岡 薫	八木 健一	八木 鎮夫
平沢 宏	平島 靖之	平田 善一	平田 義則	八城 真次	矢崎 武	矢田部 彰	矢野洋一郎
平野 栄一	平野 良弘	平松 清和	平松 良之	矢部 正和	矢ヶ部道昌	谷内田昌照	薬師寺信義
平山 克夫	開 英一	広瀬莊八郎	弘重 敦士	安井 三雄	安川 寿和	安川 昌次	安田 隆彦
深川 勝利	深藏 泰司	深津 保文	福井 崇博	安田 敏教	安原 明	安原 宏紀	安福 滋
福土 裕一	福島 清	福島 啓一	福島 莊太	柳川 木	柳沢 満夫	山井 正安	山内 敬康
福田 莊義	福田 佳之	福盛 武司	福屋 智互	山上 清	山川 清臣	山川 健蔵	山川 晋一
伏見 捷二	藤井 崇弘	藤井 孝行	藤井 公	山川 尚典	山岸 重雄	山口喜太郎	山口 邦彦
藤井 博美	藤井 雅輝	藤井 学	藤江 博	山口 周宰	山口 晴三	山口 保輔	山崎 享
藤尾 武明	藤木 照夫	藤田 一郎	藤崎 可雄	山崎 萬造	山崎 裕弘	山崎 良一	山崎 諒
藤沢 茂	藤沢登世輝	藤田 義一	藤田 均	山下 靖雄	山田 克彦	山田 祥一	山田 徹二
藤田 秀夫	藤浪 紘	藤原 弘久	藤原 義一	山田 哲雄	山田 信幸	山田 弘	山田 操
藤本 順一	藤本 成	藤本 徹	藤森 研一	山田 充生	山田 稔	山中伝四郎	山本 昭
藤森 重幸	二神 栄一	二村 敦	船間 博文	山本 功	山本 和彦	山本 恭士	山本 忠彦
古川 行茂	古沢 武敏	古城 一省	古瀬 紀之	山本 信敏	山本 昌宏	横井 肇	横井 正明
古田 力	古田 敏彦	古田 学	古津 彰三	横木 勝治	横田 徹	横村四郎吉	横山 知光
古山 圭一	紅粉 彰	母坪 孝之	保坂 清明	吉井 淳	吉岡 明	吉川 弘一	吉川 徹
星合 哲	星田 義治	星野 晃次	細井 将右	吉川 光国	吉沢 隆	吉沢 孝和	吉田 国豊
細田 清光	細矢 俊昭	堀江 裕	堀口 隆司	吉田 圭佑	吉田志津雄	吉田 公教	吉田 敏雄
堀田 宏	堀中 正明	本多 源一	本多 正市	吉田 浩一	吉田 広	吉田 良和	吉田 凱彦
本間 久幸	本間 幹雄	真鍋 浩	真鍋 好信	吉武 一俊	吉原 武夫	吉房 節	吉村 宏清
真野 喜典	前川 勝己	前川 輝之	前川 道人	吉村 隆尚	吉村 元広	吉本 至	葭田 衛
前田 晃一	前田 勉	前田 英夫	前田 稔	米川 正	米田 勉	米長 泰	頼 千元
前原 常信	前山 純一	牧 和郎	牧野平吉郎	渡 義治	渡部 威	渡辺健之助	渡辺 一男
楨村 良平	正生 常樹	正木誠之助	楨田 孝三	渡辺紘二郎	渡辺 武一	和田 明	輪田 朝雄
増田 喬	増見 豊彦	増本 秀二	増山 高偉	若林 嘉孝	若松 幹男	渡辺 章	渡辺 圭道
松井 家孝	松浦 章夫	松浦 先信	松岡 公二	渡辺 治郎	若松 哲二	渡辺 升	渡辺 真通
松崎慎一郎	松崎 俊也	松下 剛	松岡 公二	渡辺 満	渡辺 誠彦	渡辺 芳弘	渡部 悦次
松下 寿一	松下 征雄	松島 三晃	松田 興二	綿引 弘道			
松平 竜三	松田 充弘	松谷 真二	松塚 鈺年	480 円			
松永 光司	松永 周三	松永 英志	松原 峯生	広橋賢二郎			
松村 米紘	松元 和彦	松本 勲	松本 崇	450 円			

川口 信幸

300 円 (計 4 名)

梶本 式男 城宝 春生 立林 久 力久 浅雄

200 円 (計 5 名)

井上不二雄 市川 芳忠 西本 幸治 原田 照男

宮崎 洋三

100 円 (計 3 名)

河上 敬 平野 俊吉 渡辺 具能

20 000 円

岡山県土木部

(秋山 純雄	秋山 正木	秋山 昌信	芦田 浩二
鮑浦 靖	池上 淳之	榎本 一郎	大室 幸造
可児 美之	河本 重臣	清郷 博人	酒井 一郎
坂手 康人	杉山 一郎	杉本 満	大工原 潮
田中 百郎	田野村英夫	長尾 福夫	中川 宏
萩原 明	花房 三弥	藤田 信興	藤原 啓隆
前 明洋	松島 正	室本 進	矢吹 成之
山本 美忠	行友 誠	行松 光雄	吉田 至道)

9 000 円

名古屋鉄道KK土木部

(榎 修仁	岡島 千仞	加藤 健常	神谷 守彦
永谷 譲二)			

7 000 円

島根県土木部

(井山 松吉	飯塚 定夫	石谷 昭義	伊藤 宏
上野 恒雄	尾崎 明弘	大給礼太郎	大畑 穰
太田 宏文	岡部 恒美	梶谷吉之助	角坂 仁忠
川井 正典	河上 敬	小寺 一雄	佐田 増蔵
佐藤 信吾	高橋 正規	竹内 俊夫	多久和守信
多田 一雄	田中 稔	永田 鉄雄	長島 一夫
中村 宏	秀島 隆史	藤井三千男	舟木 広
文谷 究	細田 豊	松浦 忠彦	松浦 美郎
三井 庄造	村上 胖	若谷 肇)	

5 000 円

兵庫県立兵庫工業高等学校土木科

(花房 保 他一同)

3 000 円

電気興業KK川越工場

2 883 円

琉球大学土木工学科

(上原 方成 上間 清 大城 武 具志 幸昌)

2 500 円

協立設計事務所

(伊東 慶禧 大房 高明)

長い線でも
同じ細さに

かき始めも 先端がくずれない
途中でかき減りが少ない

6H→6B 14硬度 1 ダース ¥600

uni



三菱鉛筆